

第八十六回帝國議會  
衆議院

船員保險法中改正法律案委員會會議錄(速記)第二回

付託議案

船員保險法中改正法律案(政府提出)  
(第一號)

昭和二十年一月二十四日(水曜日)午後  
一時三十分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 村松 久義君

理事 富田愛次郎君 理事 仲井間宗一君

理事 渡邊 健君

藏原 敏雄君

菅又 薫君

高城 勲夫君

中越 善幸君

松岡 俊三君

山口喜久一郎君

同日委員 森田重次郎君 辭任ニ付其ノ補  
闕トシテ渡邊健君ヲ議長ニ於テ選定セ

同日理事 森田重次郎君ノ補闕トシテ渡  
邊健君ヲ理事ニ當選セリ

出席國務大臣左ノ如シ

出席政府委員左ノ如シ

厚生政務次官 廣瀬 久忠君

厚生政務次官 中井川 浩君

厚生政務次官 馬場 元治君

厚生省健康局長 入江誠一郎君

厚生省衛生局長 龜山 孝一君

厚生省勤務局長 中村敏之進君

厚生省保險局長 伊藤 謙二君

厚生省部長 佐伯 敏男君

厚生省部長 齋藤 昇君

厚生書記官 宮田 爲登君

厚生書記官 花澤 武夫君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

船員保險法中改正法律案(政府提出)

○村松委員長 是ヨリ會議ヲ開キマス、

最初ニ御諮リ致スコトガゴザイマス、

ソレハ理事 森田重次郎君ガ本日本委員  
ヲ辭任セラレマシタノデ、其ノ補闕選  
舉ヲ行ハナケレバナラヌノデアリマス  
ガ、是ハ先例ニ依リマシテ委員長指名  
ト云フコトニ致シタイト存ジマス、御  
異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○村松委員長 御異議ナシト認メマス、  
ソレデハ渡邊健君ニ理事ヲ御願ヒ致シ  
マス

是ヨリ、本委員會ノ付託議案デアリ  
マス船員保險法中改正法律案ニ付テ、  
當局ノ説明ヲ承ルコトニ致シマス

○廣瀨國務大臣 只今議題トナリマシ  
タ船員保險法中改正法律案ニ付キマシ  
テ、提案ノ理由並ニ其ノ要旨ヲ説明致  
シマス

今日ノ情勢下ニ於キマシテ、海上輸  
送ノ飛躍的増強ヲ圖リマスコトガ刻下  
焦眉ノ急務デアリマスコトハ、今更  
言ヲ要シナイ所デアリマス、是ガ爲ニ  
ハ各般ノ施策ヲ強力且ツ適切ニ實施ス  
ルヲ要スルノデアリマスガ、船舶運  
營ノ側ニ當リ船舶ヲシテ驅起勇奮、決  
戰海上輸送ノ使命完遂ニ挺身セシメ  
スコトガ極メテ緊要ト存ズル次第デア  
リマス、船員保險法ハ我が國海運ノ發  
展ニ資スル爲メ、船員勤勞力ノ確保増  
強ト、船員保護ノ充實トヲ主眼トスル  
國家的ノ厚生施設トシテ、昭和十四年  
四月其ノ制定ヲ見、其ノ後大東亞戰爭  
ノ勃發ニ依リ情勢ノ變遷ニ鑑ミ、昭和  
十八年四月傷病給付ノ充實ト、戰時加  
算制度ノ創設トヲ目途トスル改正ヲ經  
テ今日ニ至ツタノデアリマス、併シナ  
ガラ戰局ノ推移ハ更ニ海上輸送ノ様相

ヲ一變シ、船員ノ勤勞狀況モ亦著シク  
加重セラレマシテ、本法ノ根本的ノ改  
正ヲ要請スルノ實情ニ立至ツタノデア  
リマス、加フルニ陸上勤勞者ニ對シマ  
シテハ、昨年勞働者年金保險法ノ劃期  
的改正ガ行ハレ、健康保險法モ亦面目  
ヲ改ムルニ至リマシタ結果、是等ノ法  
律トノ權衡上ヨリスルモ、船員保險法  
ノ改正ハ遷延ヲ許サヌ事情ニアルト考  
ヘラル、ノデアリマス、以上ノ事情ニ  
鑑ミマシテ、政府ハ今回船員保險法ノ  
改正ヲ企圖致シタ次第デアリマシテ、  
以下其ノ内容ノ大要ニ付キ御説明ヲ申  
上ゲマス

改正ノ第一點ハ、被保險者範圍ノ擴  
張デアリマス、現行制度ニ於キマシテ  
ハ、乗船中ノ船員ノミヲ被保險者ニ致  
シテ居ルノデアリマスガ、今回ノ改正  
ニ當リマシテハ、豫備船員及ビ應召、  
入營中ノ船員ト雖モ、船舶所有者ニ使  
用セラル、限り、普ク本制度ノ恩澤ニ  
浴セシメ、船員保護ノ充實ニ遺漏ナキ  
ヲ期セントスルモノデアリマス

改正ノ第二點ハ、傷病給付ノ擴充強  
化デアリマス、即チ船員ノ過勞、業務  
災害ノ増加等ニ基因スル傷病ノ増加ノ  
狀況ニ鑑ミマシテ、船員ノ健康保護ノ  
徹底ヲ圖ル爲メ、從來療養ノ給付及ビ  
傷病手當金ノ支給ヲ致シマセヌデシタ  
船員職員ニ對シマシテモ、總テ其ノ保  
護ヲ及ボシマスト共ニ、療養ノ給付及  
ビ傷病手當金ノ支給期間ヲ延長シ、其  
ノ内容ヲ一段ト改善充實セントスルモ  
ノデアリマス

改正ノ第三點ハ、遺族年金及ビ葬祭  
料制度ノ創設デアリマシテ、遺族援護  
ノ強化ヲ圖ルト云フコトハ、船員ヲシ  
テ後顧ノ憂ヒヲ斷タシメ、船員ノ士氣  
ヲ鼓舞スル所最モ大ナルモノガアルト認  
メラレマスノデ、現行制度ニ於ケル死  
亡手當金ヲ廢止シテ、新タニ本制度ヲ  
創設致サントスル次第デアリマス、又葬  
祭料制度ニ付キマシテハ船員法上ノ同  
種制度ヲ吸收シテ、國家的制度トシテ  
其ノ整備ヲ圖ラントスルモノデアリマ  
ス

改正ノ第四點ハ、養老年金、障害年金、  
障害手當金及ビ脫退手當金等、保險給  
付ノ充實改善デアリマス、現行制度ニ於  
ケル是等給付ノ内容ハ陸上勤勞者ニ對  
スル厚生保險制度タル厚生年金保險法  
ノ内容ト比較シマス時、或ハ其ノ給付金  
額ニ於テ、或ハ其ノ給付條件ニ於テ著  
シク遜色ヲ認メマスノデ、今回之ヲ改  
メ、特ニ職務ノ爲メ發疾トナリマシタ  
者ニ對シマシテハ、厚生年金保險法ノ  
例ニ準ジ給付ノ内容ヲ一段ト充實シ、  
安ンジテ其ノ職務ニ精勵シ得マスルヤ  
ウ致サントスル次第デアリマス

最後ニ今次改正ノ主眼トシテ最モ考  
慮ヲ拂ヒマシタ點ハ、戰時特例ノ徹底  
的強化ヲ圖リ、以テ海上輸送確保ノ爲  
メ、南溟ニ將又北洋ニ幾多ノ危險ヲ冒  
シ、凡ユル困苦缺乏ヲ嘗メテ、默々ト  
シテ敢闘シツ、アル船員ノ奮闘ニ應ヘ  
ントスル所ニアリマス、即チ其ノ第一  
トシテハ戰時加算率ノ増率デアリマ  
ス、戰時危險區域ヲ航行スル船舶ニ乘  
組ム被保險者ニハ、昭和十九年一月一  
日以降其ノ乘組期間中二月以內ノ加算

ヲ致シマスト共ニ、戰時危險ニ依ル職  
性者ニ對シマシテハ、特ニ三月以內ノ  
加算ヲ行ヒ、總テ加算ニ要スル費用ハ  
國庫ニ於テ負擔スルコトト致シマシ  
テ、其ノ辛勞ニ酬ヒ、援護ノ充實ヲ圖  
ラントスルモノデアリマス、其ノ第二  
ハ戰時危險ニ因ル發疾、又ハ死亡者ニ  
關スル障害年金、遺族年金等ノ保險給  
付ニ要スル費用ヲ、戰時危險ノ特殊性  
ニ鑑ミ之ヲ保險料ト切離シ、使用主及  
ビ船員ノ負擔ニ俟ツコトナク國庫ノ負  
擔ト致シタノデアリマス、其ノ第三  
ト致シマシテハ、大東亞戰爭勃發後  
ノ戰時危險ニ因ル犧牲者ニ對シマシテ  
ハ、假令本法施行前ニ發疾トナリ、又  
ハ死亡シタル者ト雖モ、總テ障害年金、  
遺族年金等ノ給付ヲ行フコトトシ、之  
ニ要スル費用モ亦國庫ノ負擔ト致シマ  
シテ、是等犧牲者ノ保護ト遺族ノ援護  
トニ、萬全ノ措置ヲ執ラントスルモノ  
デアリマス

之ヲ要スルニ今次ノ改正ハ現行制度  
ヲ根本的ニ改訂シ、保險給付ノ全面ニ  
互ツテ其ノ内容ヲ、陸上勤勞者ニ對ス  
ル厚生施設タル健康保險法、又ハ厚生  
年金保險法ノ同種ノ給付以上ノモノト  
致シマシタ外ニ、特ニ戰時特例ノ強化  
擴充ヲ圖リ、極力船員ノ優遇ニ努メ、  
其ノ士氣ノ昂揚ヲ圖リ、以テ本制度ヲ  
シテ聖戰完遂ノ強力ナル礎石タラシメ  
ントスルニ他ナラナイノデアリマス、  
何卒御審議ノ上速カニ御協賛アラント  
ヲ切望致シマス

○村松委員長 引續キ政府委員ノ説明  
ヲ願ヒマス——保險局長

○伊藤 政府委員 只今大臣カラ船員保險法改正ノ精神ナリ其ノ内容ニ付テ御説明ガゴザイマシタガ、私カラ稍、細カイ點ニ付テ御話ヲ申上ゲタイト思ヒマス、御手許ニ船員保險制度要旨新舊比較對照表ト云フノガ才配リ致シテゴザイマスカラ、ソレヲ御覽ニナリナガラ御聽取ヲ願ヒタイト思ヒマス

最初ニ今回ノ改正ノ要點ハ、只今大臣カラ御話ガゴザイマシタ通りニ三點アルノデアリマシテ、被保險者範圍ノ擴充ガ其ノ一點デアリ、第二點ガ保險給付ノ充實デアリ、第三點ガ大東亞戰爭戰時特例ノ徹底デアリノデアリマス、其ノ第一ノ被保險者範圍ノ擴充デアリマスガ、現行法デハ船員法第一條ニ規定スル船員ノミガ被保險者ニナツテ居リマス、船員法第一條ニ規定スル船員ト申シマス、日本船舶ニ乗リ組ンデ居ル者デナケレバナラヌコトニナツテ居リマス、隨テ現行法デハ乗船中ノ船員ノミガ被保險者デアツテ、下船中ノ船員ハ被保險者デナイコトニナツテ居リマス、隨テ下船中ノ船員ニ對シマシテハ、療養ノ給付モナク、又下船中ノ期間ハ養老年金ノ年限ノ計算ニ入ラナイ、斯ウ云フコトニナツテ居リマシテ、是等ノ船員ノ中カラ、我々ハ下船中ト雖モ豫備船員トテ次ノ活動ニ對シテ待機ノ姿勢ニアル、ソレヲ被保險者期間カラ除外スルコトハ不都合デハナイカ、之ヲ是非改正シテ貰ヒタイト云フ要望ガアリマシテ、洵ニ尤モナコトデアリマスノデ、今回ノ改正ニ於キマシテハ豫備船員ヲモ被保險者ノ範圍ニ入レルヤウニ致シタイト考ヘテ居リマス、尙ホ入營應召中ノ船員ニ付キマシテモ、是レ亦被保險者ノ範圍ニ入レタイト考ヘテ居リマス、次ニ任意繼續被

保險者ト云フノガアリマスガ、是ハ一定年限被保險者デアツタモノニ對シテハ、被保險者資格ヲ喪失シタ後ニ於テモ、即チ船員デアツタモノガ船員ヲ止メテモ、或ル一定年限船員デアツタモノニ對シテハ、其ノ後本人ガ保險料ヲ納メルナラバ、其ノ年限ヲ通算シテ養老年金ニ到達スルヤウニシテヤル爲ニ設ケラレタ制度デアリマシテ、其ノ爲ニ任意繼續被保險者ト云フ制度ガアリマスガ、是ガ現行法デハ十年以上被保險者デナケレバ任意繼續被保險者タリ得ナイト云フコトニナツテ居リマスノデ、之ヲ改正シテ七年以上被保險者デアレバ、任意繼續被保險者タリ得ルヤウニ致シタイト考ヘテ居リマス、次ニ標準報酬デアリマス、御承知ノ通り此ノ標準報酬ガ保險料徵收ナリ、或ハ保險金給付ノ基本金額ニナルノデアリマシテ、之ヲ基準トシテ養老年金ナリ其ノ他ノ年金給付、或ハ脫退手當金等ヲ支給スル譯デアリマスガ、現行法デハ標準報酬ニ付テ最高額ヲ定メテ千八百圓ニ抑ヘテ居リマス、隨テ二千圓ナリ三千圓ナリノ收入ノアルモノモ、總テ標準報酬ヲ千八百圓ト云フコトデ抑ヘマシテ、ソレ等ノモノガ退職シテモ、千八百圓ヲ基準トシテ養老年金ヲ支給スルコトニナツテ居リマス、此ノ最高制限千八百圓ハ今日ノ實情カラ見ルト低キニ失スト考ヘラレマスノデ、之ヲ三千圓マデ引上ゲル、斯様ニ考ヘテ居リマス、尤モ此ノ標準報酬ノ點ハ實ハ勅令ニ委任サレテ居ル事項デアリマシテ、法律ノ改正案内容ニハ出テ居リマセヌガ、保險制度ニ付テノ重要ナ改正デアリマスノデ、參考ノ爲ニ掲ゲテ置イタルデアリマス

次ニ改正主眼ノ第二點デアル保險給付ノ改正デアリマスガ、之ニ付キマシテハ大體三ツノ重要ナ點ヲ考慮シタノデアリマス、其ノ第一ハ、御承知ノヤウニ昨年厚生年金保險法ガ改正セラレマシテ、陸上勞務者ニ對スル保險給付ガ非常ニ改善充實サレマシタノデ、ソレニ較ベマス、船員保險ノ保險給付ガ著シク内容ヲ低下シタ形ニナツテ居リマスノデ、此ノ四凸ヲ是正シテ、船員保險ノ保險給付ノ内容ヲ、少クモ陸上勞務者ニ對スル保險給付ニ遜色ノナイヤウニスル、或ハ船員特殊ノ事情ニ依リマシテハ陸上勞務者ヨリモ幾分か良クスル、斯ウ云ツタヤウナ氣持デ改正案ヲ立案致シタ譯デアリマス、ソレカラ第二ニハ、陸上勞務者モ同様デゴザイマスガ、職務上ノ事由ニ依リマシテ發疾トナリ、或ハ死亡シタ、斯ウ云フ風ナ者ニ對シマシテハ職務外ノ事由ニ依ツテ普通傷病トカ、普通死亡ニ比ベテ保險給付ノ内容ヲズツト格段ニ良ク致シマシテ、勤勞ノ國家性ト云フモノヲソコニハツキ表ハスト云ツタヤウナ氣持デ、職務上ノ事由ニ依リ傷病トナツタ者、發疾トナツタ者、死亡シタ者等ニ對シマシテハ之ニ厚ク保險給付ヲスル、斯ウ云フ風ナ點ニ力ヲ注イダノデゴザイマス、ソレカラ第三ニハ先程大臣カラ御説明ガゴザイマシタヤウニ、遺族年金制度ト云フモノヲ創設スルト云フ點デゴザイマス、此ノ三ツガ保險給付ノ改善ニ付キマシテ、最モ力ヲ注イダ點デゴザイマス、其ノ内容ニ互リマシテ御説明ヲ申上ゲタイト思ヒマス

最初ニ保險給付ノ中ノ療養ノ給付デゴザイマスガ、是ガ現行法デハ支給期間ガ九箇月ニ制限サレテ居リマス、但シ結核性疾病ハソレヨリ半年長クテ一年三箇月間支給致シマスガ、原則トシテ九箇月ニ區切ツテ居ルノデゴザイマス、之ヲ改正致シマシテ職務上ノ事由ニ依ツテ疾病ニ罹リ又ハ負傷シタ者ニ對シマシテハ、其ノ轉歸ニ至ルマデ、即チ治愈スルマデ、若クハ不幸死亡スルト云ツタヤウナ醫療ヲ要シナイ狀態ニ達スルマデ、無制限ニ療養ノ給付ヲスルコトニ改正シタイト思フノデアリマス、職務外ノ事由ニ依ルモノニ對シマシテハ二年間療養ノ給付ヲシヨウ、斯ウ云フ案デゴザイマス、ソレカラ現行法デハ高級船舶職員ニハ療養ノ給付ノ制度ハゴザイマセヌ、高級船舶職員ニ對シマシテハ脫退手當金デアルトカ、或ハ養老年金ト云フ風ナ長期給付ハ致シマスケレドモ、短期ノ給付ハ全然致シマセヌ、隨ヒマシテ保險料モ高級船舶職員ハ普通船舶職員ヨリモ低カツタノデアリマスガ、是ハ船舶一家ノ精神、船舶一體ノ實情カラ見テ如何ニモ不合理ダ、高級船舶職員モ普通船舶員同様ニ保險料モ等シクシ、保險給付モ同ジヤウニシテ同一ニ扱ツタ方ガ宜イソデヤナイカ、斯ウ云フ風ナ意見モゴザイマスシ、船員ノ希望モアリマスノデ、是レ亦今回改正ヲ加ヘマシテ高級船舶職員ニモ療養ノ給付ヲ行フト云フコトニ致シタイト思ツテ居ルノデアリマス

其ノ次ニ傷病手當金デゴザイマスガ、此ノ傷病手當金ガ療養ノ給付ト同様ニ、現行法デハ支給期間ガ九箇月ニ制限サレテ居ル、其ノ點ヲ改メマシテ療養ノ給付ト同様ニ、職務上ノ事由ニ依リ傷病ニ對シマシテハ轉歸ニ至ルマデ無制限ニ支給スル、職務外ノ事由ニ依ルモノニ對シテハ二年間ニ延長シテ支給スル、斯様ニ改正致シタイト思フノデアリマス、次ニ支給額デアリマスガ、支給額ハ現行法通り給料日額ノ百分ノ六十ヲ支給致シタイト存ジマス、此ノ新舊比較對照表ニ「入院セザル場合ハ」トアリマスガ、是ハ少シク字句ガ足りマセヌデ「入院セザル場合及ビ入院シタルモ家族ノアル場合ハ」給料日額ノ百分ノ六十「デゴザイマス」ロニ「入院シタル場合ニシテ被扶養者ナキトキ百分ノ二十」是ハ獨身者ガ入院シタ場合ニハ病院院費食事モ出ルノデゴザイマスカラ、給料ノ百分ノ六十モヤル必要ハナイ、百分ノ二十デ宜イソト云フ建前デ、現行法ハ百分ノ二十ニナツテ居リマス、此ノ點ニ改正ヲ加ヘマシテ、獨身者ガ入院シタ場合ニハ給料ノ百分ノ四十ヲ支給シタイト考ヘテ居ルノデアリマス、是ハ陸上ノ勞務者ニ對シマシテ現行法ガ百分ノ二十ヲ支給致シテ居ルノデゴザイマスカラ、ソレトノ均衡カラ申シマスレバ百分ノ二十デ宜イ管デアリマスガ、ソコガ船員ノ特殊性ト申シマスカ、船員ハ療養ノ給付ヲ受ケルノガ、概ネ自分ノ郷里デナク、遠隔ノ地ニ於テ療養ノ給付ヲ受ケマスノデ、何かト出費ガ陸上勞務者ヨリ餘計ニ掛リマスノデ、幾分此ノ點ヲ改正致シマシテ、百分ノ四十ヲ支給スルコトニ致シタイト考ヘテ居ルノデアリマス、ソレカラ現行法デハ高級船舶職員ニハ療養ノ給付ト同様ニ傷病手當金モ支給致シテ居リマセヌガ、是亦療養ノ給付ト同様ニ改正致シマシテ、高級船舶職員ニモ之ヲ支給スルヤウニ致シタイト考ヘテ居ル次第デゴザイマス

其ノ次ニ養老年金デアリマス、養老年金ノ支給條件ハ十五年以上被保險者ニシテ年滿五十歳、詰リ十五年以上被保險者タルコトガ第一ノ條件デアリマス、支給開始ノ時期ガ年滿五十歳ヲ超

エタル時、斯ウ云フコトニナツテ居ルノデアリマスガ、此ノ點ハ現行法通りニ致シテ置キマス、支給額ハ現行法デハ一年ニ付テ平均給料ノ三分分、即チ年收ノ四分ノ一ニナツテ居リマスガ、之ヲ改メシテ一年ニ付テ平均給料ノ四分分ヲ支給シタイト考ヘテ居リマス、即チ年收ノ三分ノ一、官吏ノ恩給ガ御承知ノヤウニ年俸ノ百五十分ノ五十、即チ三分ノ一ニナツテ居リマスカラ、ソレト均衡ヲ取リマシテ一年ニ付キ平均給料ノ四分分、即チ年收ノ三分ノ一ヲ支給スル、斯様ニ改正シタイト考ヘテ居ルノデアリマス、次ニ加算デゴザイマスガ、現行法デハ十五年以上勤続致シマス、一年ヲ増ス毎ニ平均給料ノ百分ノ一、即チ三・六二分ヲ支給致シテ居リマスガ、之ヲ改正致シマシテ、十五年以上勤続致シマシテ一年ヲ増ス毎ニ平均給料ノ六二分ヲ支給スルコトニ致シタイト考ヘテ居ルノデアリマス、此ノ點ヲ御説明申シマスト非常ニヤ、コシクナリマスカラ、是ハ若シ御質問ガゴザイマスレバ御答ヘ致シマス、其ノ次ニ最低保障額デゴザイマスガ、此ノ最低保障額ト申シマスノハ養老年金ヲ受ケル權利ヲ有スル者ガ死亡シタ場合ニハ原則トシテ遺族年金ニ入リマス、遺族ガアレバ遺族年金ヲ支給スルノデアリマスガ、遺族年金ヲ支給スル範圍ノ遺族ハ限定サレテ居リマスノデ、其ノ遺族年金ヲ受ケル資格ノアル遺族ノナイ場合ニハ、其ノ他ノ遺族ニ一時金トシテ支給スルノデゴザイマスガ、是ヲ最低保障額ト申シテ居リマス、是ガ現行法デハ五年分ヲ支給スルコトニナツテ居リマス「五年間」トアリマスガ、是ハ「五年分」ト直シテ戴キマス、之ヲ改メシテ六年分ヲ支給スルコトニ致シタイ

ト思ツテ居ルノデアリマス、ソレカラ次ノ養老年金ノ最高制限デゴザイマス、是ハ現行法デハ養老年金ノ最高制限ナルモノヲ設ケマシテ、一年ニ付キ平均給料ノ六分分、即チ年收ノ二分ノ一以上ノ養老年金ハ支給シナイト云フ建前ニナツテ居ル譯デアリマス、即チ加算ヲ加ヘマシテ年收ノ半分ニナツタ場合ニハモウソレデ止メル、ソレ以上ノ年金ハ支給シナイト云フ建前ニナツテ居リマスガ、之ヲ廢止シマシテ、本人ノ勤続如何ニ依ツテハドコモデモ養老年金ヲ支給シテヤル、斯ウ云フ風ナ制度ニ改メタイト考ヘテ居ルノデアリマス

其ノ次ニ障害年金ニ入リマス、障害年金ノ下ニ（養疾年金）トゴザイマスガ、是ハ現行法デハ養疾年金ト稱シテ居リマスレドモ、如何ニモ陰慘ナ名前デゴザイマスノデ、之ヲ障害年金ト名前ヲ改メタイト思フノデアリマス、此ノ障害年金ノ支給條件ガ現行法デハ三年以上被保險者デナケレバナラヌコトニナツテ居リマス、如何ナル場合ニモ三年以上被保險者デナケレバ障害年金ヲ支給シナイト云フコトニナツテ居リマスガ、之ヲ改メシテ職務上ノ事由ニ因ツテ障害ヲ受ケル者、不具養疾トナル者ニ對シマシテハ、被保險者期間ニ何等ノ制限ヲ加ヘズ、即チ被保險者ニナリマシテ其ノ日ニ不具養疾ニナリマシテモ、ソレガ職務上ノ原因ニ基クモノデアラナラバ直チニ障害年金ヲ支給スル、斯ウ云フ風ニ致サウトシテ居ル譯デアリマス、職務外ノ原因ニ基ク不具養疾者ニ對シマシテハ、現行法ト同ジヤウニ三年以上被保險者タルコトヲ要スル、斯ウ云フコトニ致シテ居ルノデアリマス、ソレカラ障害

年金ノ支給額デゴザイマスガ、是ガ現行法デハ養老年金ト同様ニ、一年ニ付テ平均給料ノ三分分ト云フコトニナツテ居リマスガ、之ヲ改メシテ職務上ノ原因ニ基ク不具養疾者ニ對シマシテハ、一年ニ付キ平均給料ノ五分分乃至八月分ヲ支給スル、障害ノ程度ニ應ジマシテ一級乃至六級ノ六階級ニ分チマシテ、最モ重イ者ニ對シマシテハ八分分、最モ輕イ不具養疾ノ程度ノ者ニ對シマシテハ五分分、養老年金ガ四月分デアリマスカラ、何レモ養老年金ヨリ多額ノ年金ヲ支給スルコトニ致シタイト考ヘテ居リマス、職務外ノ原因ニ基ク不具養疾者ニ對シマシテハ、是ハ養老年金ト同様ニ一年ニ付キ平均給料ノ四分分ヲ支給スル、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居リマス、ソレカラ加算デゴザイマスガ、加算ガ現行法デハ十五年以上一年ヲ増ス毎ニ平均給料ノ百分ノ一ニナツテ居リマスガ、是亦養老年金ノ所デ御説明申上ゲマシヤウニ、十五年以上、一年ヲ増ス毎ニ平均給料ノ六分分ヲ加算スルコトニ改正案ハナツテ居ル譯デアリマス、ソレカラ最低保障額ガ養老年金ト同様ニ障害年金モ五年分トナツテ居リマスガ、ソレヲ改メシテ六年分ニ致シマス、ソレカラ最高制限ガ現行法デハ一年ニ付テ平均給料ノ六分分ニナツテ居リマスガ、之ヲ改メテ一年ニ付キ平均給料ノ十二分分、即チ從來本人ガ得テ居ツタ年收ト同額ノ年收ヲ受ケ得ル程度マデ最高制限ヲ高メタイ、斯様ニ改正ヲ致シタイノデアリマス

次ニ障害手當金デアリマスガ、現行法デハ養疾手當金ニナツテ居リマスガ、是レ亦障害年金ト同様ニ名稱ヲ改メテ障害手當金ト致ス案ニナツテ居リ

マス、此ノ支給條件ガ三年以上被保險者タルコトヲ要スルヤウニ現行法ハナツテ居リマスガ、是レ亦改正ヲ加ヘテ職務上ノ原因ニ基ク障害ニ對シテハ、被保險者期間ニ何等ノ制限ヲ設ケルコトナク、無條件ニ支給スルコトニ致シタイ、職務外ノ原因ニ基クモノニ對シテハ、現行法通り三年以上被保險者タルコトヲ要スルコトニ致シテ居リマス、ソレカラ支給額ガ平均給料ノ七分分ト云フコトニ現行法ハナツテ居リマスガ、之ヲ改メテ職務上ノ原因ニ基ク障害ニ對シテハ、其ノ障害ノ程度ニ應ジテ、平均給料ノ二分分乃至二十五分分ノ手當金ヲ支給致シタイ、デアリマス、職務外ノ原因ニ基クモノニ對シテハ平均給料ノ十分分ヲ支給スルコトニ致シタイノデアリマス、一寸御覽ニナリマス、職務上ノ原因ニ基クモノノ二分分乃至二十五分分デアツテ、職務外ノモノガ平均給料ノ十分分ト云フノハ均衡ヲ失スルデハナイカト云フ風ニ御覽ニナルカモ知レマセウガ、是ハ障害手當金支給ノ障害ノ程度ニ差別ガアルノデアリマシテ、職務上ノ原因ニ基クモノニ付テハ、比較的輕イ障害ニ對シテモ障害手當金ヲ支給致シマス、職務外ノ原因ニ基ク障害ニ對シテハ、相當重イ程度ノ障害デナケレバ障害手當金ヲ支給致シマセヌノデ、隨テ職務外ノ原因ニ基キ平均給料ノ十分分ノ障害手當ヲ受ケマシテモ、職務上ノ原因ニ基キテ障害手當金ヲ受ケル者ト比較致シマシテ、均衡ノ取レナイト云フコトハ全然ナイノデゴザイマス

次ニ脱退手當金デアリマスガ、是ハ養老年金ヲ受ケ得ル年限ニ達シナイ途中ニ於テ脱退スル者ニ對スル保險料ノ割戻シ、還附金ニ相當スルモノデア

リマス、是ガ現行法デハ三年以上十五年未滿ノ被保險者ト云フコトニ支給條件ガ固定シテ居リマスガ、最近徵用等ヲ受ケテ、三年以下ノ期間ニ於テ徵用ノ解除ヲ受ケタリ、或ハソレ以下ノ期間ニ於テ死亡シタヤウナ場合ニ、本人ノ保險料ガ掛捨テニナルコトハ洵ニ氣ノ毒デアリマスノデ、此ノ點ヲ改メテ、六箇月以上三年未滿ノ被保險者ニ對シマシテモ、脱退手當金ヲ支給スルコトニ改メタイト思ツテ居ルノデアリマス、支給額ハ現行法デハ平均給料ノ一月半分乃至十分分ト云フコトニナツテ居リマスガ、之ヲソレハ「保險料ノ増徴ニ伴ヒマシテ改正ヲ加ヘテ、脱退手當金ノ支給額ヲ増額スルコトニ致シタイノデアリマス、尙ホ内譯ハ餘リニ微細ニ互リマスノデ省略致シマス

次ニ遺族年金デアリマスガ、現行法ニハ遺族年金ノ制度ゴザイマセヌノデ、保險給付ノ最後ノ所ニ書イテアル死亡手當金ト云フ制度ガ現行法デハアルノデアリマス、現行法デハ三年以上被保險者デアツタ者ガ死亡シタ場合ニ、平均給料ノ三分分ノ死亡手當金ヲ支給致シテ居リマス、今日大東亞戰爭最中ニ於テ或ハ潜水艦ノ襲撃ヲ受ケ、敵機ノ雷爆撃ヲ受ケテ死亡スル方々ガ澤山アル譯デアリマスガ、ソレ等ノ方々ニ對シマシテ、現行法デハ、其ノ人が先ヅ第一ニ三年以上被保險者デナケレバナラヌ、斯ウ云フ條件ヲ設ケテ居リマス、ルガ爲ニ死亡手當金ヲ支給出來ナイモノガ相當アルノデアリマス、更ニ又其ノ支給額ガ僅カニ平均給料ノ三分分ト云フコトニナツテ居リマスノデ、何ト申シテモ今日ノ船員ノ實情ニ鑑ミマシテ、現行船員保險法ト云フモノハソダハナイ實情ニアリマスノデ、之ヲ改メマシ

第六類第四號 船員保險法中改正法律案委員會議錄 第二回 昭和二十年一月二十四日

五

テ新タニ遺族年金ナル制度ヲ創設スル  
譯デゴザイマス、遺族年金制度ノ内容  
ヲ申上ゲマス、其ノ支給條件及ビ  
支給額デゴザイマスガ、職務上ノ原因  
ニ基テ死亡、又ハ職務上ノ原因ニ基  
キ不具發疾ニナリマシタ者ガ死亡シタ場  
合ニ遺族年金ヲ支給スルコトニ致サウ  
ト考ヘテ居ル譯デゴザイマス、職務上  
ノ原因ニ基テ場合ニ於キマシテハ、本  
人ノ被保險者期間ニ何等ノ制限ヲ設ケ  
マセヌ、即チ被保險者ニナリマシテ其  
ノ翌日死亡シタ場合ニ於キマシテモ、  
其ノ遺族ニ對シテ直チニ遺族年金ヲ支  
給スル或ハ職務上ノ原因ニ基イテ不具  
發疾ニナツタ者ガ、僅カノ期間ニ死亡シ  
タト云フ場合ニ於キマシテモ、其ノ遺族  
ニ對シテ遺族年金ヲ支給スル、斯ク云  
フ風ニ致シタ譯デゴザイマス、遺族年  
金ノ支給額ハ、職務上ノ原因ニ基イテ  
死亡シタ者ノ遺族ニ對シテハ五月份ヲ  
支給致シマス、職務上ノ原因ニ基イテ  
不具發疾ニナツテ、障害年金ヲ受ケテ  
居ル者ガ死亡シタ場合ニハ、其ノ半分  
デアリマス、五月份ノ遺族年金ヲ支  
給致シマス、ソレカラ職務外ノ死亡デ  
ゴザイマスガ、十五年以上被保險者デ  
アル者ガ、即チ養老年金ヲ受ケ得ル資  
格ノアル被保險者ガ、職務外ノ原因ニ  
基イテ死亡シタ場合ニハ、其ノ遺族ニ對  
シマシテ同ジク遺族年金ヲ支給シマ  
ス、其ノ支給額ハ養老年金又ハ障害年  
金ノ二分、一デゴザイマス、是ハ恩給  
法ニ基キ恩給法ノ遺族扶助料ニ準ジマ  
シテ、年金額ノ半分ヲ支給スルノデア  
リマス

ルマデ支給シマス、滿十五歳ヲ超エテ  
支給スル場合ハ、其ノ子及ビ孫ガ不具  
發疾ニナツテ、生活ノ途ナキ場合ニ於  
キマシテハ、十五歳ヲ超エマシテモ支  
給シマスガ、原則トシテ滿十五歳マデ  
デ打切りマス、尙ホ遺族加給金ト云フ  
制度ヲ設ケマシテ、遺族ノ中ニ子供ガ  
澤山アル場合ニハ、其ノ子供ノ扶養  
料、生活資料ト致シマシテ、滿十五歳  
未滿ノ子供一人ニ付テ平均給料ノ十日  
分ヲ遺族年金ニ加ヘテ支給スルコトニ  
致シマス

次ハ葬祭料デゴザイマス、葬祭料ハ  
現行法ニハ葬祭料ノ制度ハゴザイマセ  
ヌ、之ヲ新タニ設ケマシテ、本人ノ給  
料ノ二分分ヲ葬祭料トシテ支給スル、  
斯ク云フコトニ致シテ居リマス、死亡  
手當金ヲ廢シマシタコトハ、先程申上  
ゲタ通りデアリマス

次ハ費用ノ負擔デゴザイマスガ、此  
ノ保險經濟ヲ維持シテ行キマスル費用  
ヲ何處カラ抽出スルカ、費用ノ負擔ノ  
問題デゴザイマスガ、現行法デハ國庫  
ガ事務費ト保險金額ノ五分ノ一ヲ負擔  
致シテ居リマス、其ノ點ハ改正案ニ於  
テモ同様デアリマス

保險料率ハ現行法デハ普通船員ガ百  
圓ニ付テ十圓、高級船員ガ百圓ニ付テ  
六圓四十錢ニナツテ居リマス、先程來  
申上ゲマシタヤウニ各種保險給付ノ内  
容ヲ改正致シマシテ、非常ニ充實致シ  
マス、保險料ヲドウシテモ高メナケ  
レバナラス、其ノ額ガ大體今ノ豫定デ  
ハ十七圓ニナル豫定デゴザイマス、此  
ノ十七圓ノ船主十圓、被保險者七圓ノ割  
デ負擔シテ貰フ豫定デゴザイマス、ソ  
レカラ入營、應召中ノ被保險者ニ對シ  
マシテハ、保險料ヲ免除致シマシテ、  
是ハ全然徴收シナイコトニ致シテ居リ

最後ニ戰時特例デゴザイマス、今次  
改正案ノ主眼點デアリマスガ、現行法  
デハ戰時危險區域ヲ航行スル船舶ニ乘  
組ミタル場合ニハ、其ノ期間一月ニ付  
テ三分ノ一ノ加算ノ制度ガ昭和十八  
年ノ法律改正デ設定セラレタノデア  
リマス、即チ一月ニ付テ十日分ヲ加  
算スルコト云フ制度ガ昭和十八年ノ  
四月ニ法律改正ガ行ハレマシテ、是  
ガ大東亞戰爭勃發ニ適ツテ適用サレ  
テ今日ニ至ツテ居ル譯ナノデアリマ  
ス、其ノ當時ハソレデ宜カッタカト考  
ヘラレルノデアリマスケレドモ、其ノ  
後ノ情勢ハ非常ニ凄愴苛烈ヲ極メマシ  
テ、船員ノ苦勞モ並タナラスモノガア  
リ、一月ニ付テ僅カ十日分ノ加算デハ、  
今日ノ船員ノ勞苦ニ對シテ酬イテ所以  
デアリマセヌ、此ノ點ニ付テ改正  
加ヘ、一月ニ付テ二月ノ加算ヲ認メ  
コトニ致シタノデゴザイマス、即チ一  
年スレバソレガ三年ニナル、斯ク致シ  
マシテ速カニ養老年金ノ支給資格ガ到  
來スル、斯ク云フコトニナルノデゴザ  
イマスガ、原則ト致シマシテ一月ニ付  
テ二月ノ加算ヲスル、殊ニ死亡シタリ  
或ハ不具發疾トナツタヤウナ者ニ對シ  
マシテハ三月ノ加算ヲスル、斯様ニ致  
シテ居ル譯デゴザイマス、尙ホ此ノ加  
算制度ガ昨年ノ一月一日マデ遡及シテ  
適用スルコトニ致シタコト考ヘテ居ル  
譯デゴザイマス、此ノ加算ニ因ツテ生  
ズル費用ノ増加デゴザイマスガ、是ハ  
現行法モ總テ國庫負擔ニナツテ居リマ  
スガ、今同ノ改正ニ於キマシテモ此ノ  
加算ニ要スル費用ノ増加ハ全部國庫ニ  
於テ負擔スルコトニ致シテ居リマス、  
ソレカラ戰爭危險若クハ之ニ準ズベキ  
危險ニ因ツテ生ジタル事故ニ對スル給

付デゴザイマス、戰死若クハ戰死ニ準  
ズベキヤウナ死亡、或ハ戰爭危險ニ因  
テ不具發疾トナツタヤウナ者ニ對シマ  
シテハ、是等ノ遺族ニ對シ遺族年金ヲ  
支給シ、或ハ不具發疾ニナツタル本人  
ニ對シテ障害年金或ハ障害手當金ヲ支  
給シマスガ、是ハ全部國庫デ其ノ費用  
ヲ持チマシテ負擔スルコトニ致シテ居  
リマス、更ニ此ノ戰爭危險ニ因ツテ生  
ジタル事故ニ要スル保險給付ハ大東亞  
戰爭勃發マデ遡リマシテ、荷クモ大東  
亞戰爭勃發後、職務上ノ原因ニ基テ戰  
爭危險ニ因ツテ死亡シ、發疾トナリタル  
者ニ對シマシテハ、本人ニ障害年金或  
ハ障害手當金、其ノ遺族ニ對シテ遺族  
年金ヲ支給スル、左様ニ致シテ居ル譯デ  
ゴザイマス、大體改正案ノ内容ヲ申上  
ゲタ通りデアリマス、尙ホ御質問ガゴザ  
イマスレバ御答ヘ致シタイと思ヒマス

○村松委員長 是ヨリ質疑ニ入リマス、  
特ニ御注意申上ゲルマデモナイコトデ  
アリマスガ、念ノ爲ニ申上ゲテ置キマ  
ス、本案及ビ本案ニ關係ノ厚イ事項ニ  
關シマシテハ、時間等ノ制限モナク優  
先的ニ之ヲ許スコトト致シマスルガ、  
本案ニ關係ノ薄イ事項ト認メラレルモ  
ノニ付テハ、是モ成ベク時間ノ許ス限  
リ廣ク許ス積リデアリマスルガ、會議  
ノ進行上後ニ纏メテ御質問願フコト  
ガ便宜ト考ヘマスルノデ、左様ナ問題  
ニ付テハ後週シニ御願ヒマスル積リデ  
ゴザイマス、ドウカ此ノ點ヲ御諒承  
願ヒタイと思ヒマス、尙ホ大臣ハ只今  
豫算總會ニ於テ厚生省關係ノ質疑ガ行  
ハレルコトニナツテ居ルヤウデアリマ  
スガ、時間ノ許ス限リ此ノ席ニオイデ  
テ願ヒタイと思ヒマス、モウ一ツ議員  
中谷武世君ガ應召セラレマスノデ、  
大體三時或ハ三時半頃ニナルと思ヒマ

スガ、議員食堂ニ於テ壯行會ヲ行フコ  
トニナツテ居リマス、其ノ場合ハ會議  
ノ進行ノ狀況ニ應ジマシテ休會或ハ散  
會ト致シタイと思ヒマス、以上ドウカ  
御諒承願ヒタイと思ヒマス——最上  
政三君

○最上委員 戰局頗ル重大ナル折柄、  
生産増強ヲ要スベク勤勞對策ハ最モ必  
要デアリマス、又空襲頻發ノ今日罹災者  
ノ保護對策ノ必要デアルコトハ言フマ  
デモアリマセヌ、本議會ニ厚生省ハ是  
等ノ諸法案並ニ現行戰時災害保護法ノ  
改正案デモ提案セラレルカト本員ハ考  
ヘテ居リマシタ、然ルニ勤勞問題並ニ  
罹災者救護對策ニ付テハ何等提案ガナ  
イ、總カニ勤勞問題トシテ茲ニ船員保  
險法中改正法律案ガ提出サレタノミデ  
時局下一入淋シサヲ感ジマシタ、然ル  
ニ去ル二十日ノ總動員審議會ニ於テ  
ハ、假稱デアリマセウガ、國民勤勞動  
員令ガ可決決定サレマシタ、隨テ私ハ  
本案ニ關係スル所ノ是等ノ諸問題ニ付  
テ御聽キシタイノデアリマスガ、先ヅ  
第一ニ船員法中改正法案ノ内容ニ對  
シ、第二ハ勤勞動員令ニ關スル諸問題、  
第三ハ空襲罹災者ノ保護對策ニ付テ御  
聽キシタイト考フルデアリマス

先ヅ本案ハ只今政府委員ノ説明通り、  
現行保險法ニ比レバ其ノ被保險者ノ  
範圍ノ擴大デアルトカ、新タニ遺族年  
金制度ヲ創設シタトカ、又保險給付額  
ノ改正等ガ行ハレ、之ヲ他ノ厚生施設  
或ハ厚生年金デアルトカ、或ハ軍人恩  
給等ト比較シテ見マスルト、本案ノ給  
付或ハ範圍等ニ付テハ、必ズシモ缺ケ  
テ居ラナイト我々ハ考ヘマス、又現下  
ノ諸情勢カラ見レバ甚ダ生溫イ點ガア  
ルノデアリマスルガ、是等諸法案ニ比  
較シテマア此ノ程度ナラ我慢シナケレ

是ハ全然徴收シナイコトニ致シテ居リ

是ハ全然徴收シナイコトニ致シテ居リ

是ハ全然徴收シナイコトニ致シテ居リ

是ハ全然徴收シナイコトニ致シテ居リ

バナラト云フヤウナ感致スノデア  
リマス、是ガ爲メ海上輸送ニ挺身スル  
者ノ戰意ノ昂揚スルコトハ多大ナル  
ト思ハレルノデアリマス、唯是ト關聯  
シテ船員優遇案、所謂待遇問題ガ昨今  
叫バレテ居リ、又我々ノ聽カントスル  
所ハ此ノ待遇問題デアル、併シハ厚  
生省所管ニアラズシテ運輸通信省所管  
デアツテ、改メテ委員長ガ總ハテ是等  
ノ諸問題ニ付テ質問ヲ行ヒタイト云フ  
ヤウナ御意思デアリマスルカラ、私ハ是  
等待遇問題ニ付テハ申シマセヌ、隨テ  
二三疑問ナ點ニ付テ申上ゲテ御答辯ヲ  
得タイト思フノデアリマス

第一點ハ本改正案ニ依ル保險及ビ普  
通徵用制ヤ、軍ニ徵用サレル以外ニ適  
用サレルノデアリマス、所謂船舶運  
營會ノ運轉スル所ノ船舶ノミデア  
ルカ、又ハ軍徵用船ニ對シテマデ此ノ保  
險法ガ適用サレルノデアルカドウカ、  
其ノ點ニ付テ同ヒタイノデアリマス

○伊藤(護)政府委員 御答ヘ致シマス、  
軍徵用船ニ船員保險法ガ適用サレルカ  
ドウカト云フ御尋ネデアリマスガ、本  
法デハ徵用船ハ法ノ表面カラ除外致シ  
テ居リマセヌ、但シ國ニ使用サレルモ  
ノニ付テハ特別ノ規定ヲ設ケ得ルコト  
ニ勅令デナツテ居リマシテ、陸軍ノ方  
ニ徵用セラレマスモノニ付キマシテハ、  
陸軍ノ共濟組合ニ於キマシテ相  
當厚イ給付ガ行ハレマスノデ、之ニ對  
シマシテハ船員保險ノ代行ヲ認メテ、  
今日デモ共濟組合員トシテ扱ハレテ居  
リマス、海軍ノ方ノ徵用船員ニ付キマ  
シテハ、是ハ總テ船員保險ノ適用範圍  
内ニ於キマシテ今日デモ行ツテ居リマ  
ス、今後モ其ノ豫定デゴザイマス

○最上委員 只今陸軍ノ給與規定デヤ  
ラレテ居ルト云フヤウナコトデスガ、  
是ハ恩給局長其ノ他又海運總局船舶部  
ノ人ノ御出席ヲ願ハナケレバナラヌト思  
ヒマス、現ニ陸軍ニ於テハ判任官以上  
ノ者ノ戰死傷者ニ對シテハ恩給ハ支給サ  
レルガ、雇傭員ニ對シテハ支給サレテ  
居ラナイ、軍屬等ニ對シテハ適用サレ  
テ居ラナイ、例ヘテ申セバ運通省デ言  
ヘバ鐵道吏員、或ハ遞信吏員ガ軍屬ト  
シテ應召サレテ居ル、然ルニ判任官以  
上ノ者ニ對シテハ恩給ガ支給サレテ居  
ルガ、雇傭員ニ對シテハ除外サレテ居  
ル、之ニ付テ、運通省方面カラ、屢  
恩給局長ニ對シテ恩給法ニ依ル支給ヲ  
追ツテ居ルト云フヤウナ事實モアルノ  
デアリマス、隨テ私共此ノ點ニ付テハ  
多少ノ疑問ガアルノデアリマスガ、陸  
軍給與規定ニ依レバ遺族年金其ノ他ノ  
年金ガ交付サレマセウカ、御分リデア  
リマセウカ

○伊藤(護)政府委員 陸軍ノ共濟組合  
ノ方デ支給サレル管デアリマス  
○最上委員 其ノ點ニ付テ本員ノ知ル  
所デハ、陸軍ノ徵用船モ本保險法ニ依  
ツテ支給サレル方ガ非常ニ有利デア  
ルト云フノデ、運營會等ニ於テハ其ノ方  
法デヤツテ居ルヤウニ聞キ及ンデ居  
ルノデアリマス、併シ是等ノコトハ他日  
ニ讓ツテ、先頃戰時海運管理令ガ實施  
サレマシタ、然ルニ數日前船員勳員令  
ノ制定ト共ニ、此ノ管理令ガ此ノ方面  
ニ集約サレタト云フヤウニモ記憶シテ  
居リマス、此ノ管理令ニ依レバ戰艦公  
務其ノ他ノ職務上ニ於ケル疾病、或ハ  
死亡等ニ於ケル手當ハ、今マデハソレ  
ニ依ツテ出シテ居ツタノデアリマス  
ガ、今度ハ船員勳員令ニ依ツテ支給サ  
レルコトト思ヒマス、其ノ改正ト本案  
ノ改正ニ付テ、何等カ色々協議デモナ  
サツテ決定サレタノデアリマスカ、ソ

レニ付テ同ヒタイノデアリマス  
○伊藤(護)政府委員 今同船員勳員令  
ガ制定サレ、ソレニ基イテ戰時危險若  
シクハ之ニ準ズベキ危險ニ依ツテ、死  
亡若シクハ廢疾ニナツタ者ニ對シテ、  
ソレノ一時金ガ支給致サレマス、是  
ガ年金デハアリマセヌ、船員保險法  
ノ方デハサウ云フ場合ニ付テ、原則ト  
シテ遺族ニ對シテ年金ヲ支給スルコト  
ニナリマス、隨テサウ云フ方々ニ對シ  
テハ此ノ保險法ニ依ル保險給付ト、船  
員勳員令ニ基キ扶助金ト兩方ガ併セテ  
參リマス、是等ノ方々ニ對シテ兩方併  
セテ支給スルノガ至當デアルト思フノ  
デアリマス、管理令ニハ御承知ノヤウ  
ニ一時恩給ト増加恩給ト云フモノガア  
リマシテ、戰艦公務ニ因ル死亡ニ對シ  
テハ一時恩給ト増加恩給ガ參リマスガ、  
戰時保險令ノ方デハ公務ニ因ル死亡若  
シクハ廢疾ニ對シマシテ、其ノ廢疾ノ  
程度ニ應ジテソレノ年金ヲ支給シ、  
或ハ手當金ヲ支給致シマスガ、普通公  
務、戰艦公務ノ區別ハシテ居リマセヌ、  
ソレハ船員勳員令ノ方デ戰艦公務ニ基  
キモノトシテ支給サレル、是デ支給サ  
レテ權衡ガ取レルコトニナルノデハナ  
イカト思ヒマス

○最上委員 分リマシタ、大東亞戰爭  
勃發以後、本案實施以前ニ戰艦公務ニ  
因ツテ死亡又ハ廢疾、傷害ヲ受ケタ人  
人ニ對シテモ、本案實施以後ニ是ガ實  
施サレル、支給サレル、即チ其ノ中ノ  
遺族年金ノ問題デアリマス、大東亞戰  
爭勃發以來既ニ三年有半ニナリマス、  
其ノ間ニ既ニ死亡手當金ヲ支給ガアツ  
タ船員ノ家族ガ、再ビ此ノ規定ニ依ツ  
テ實施後遺族年金ヲ貰ヘルトシタナラ  
バ、其ノ死亡手當金ハ其ノ儘取ツテ置  
クノデアリマスカ、ソレヲ或ル計算ヲ

シテ返スノデアリマスカ、返サナイデ  
宜イノデアリマスカ、其ノ點ヲ……  
○伊藤(護)政府委員 船員勳員令ナリ  
或ハ船員徵用令ニ基キ扶助金ト云フモ  
ノハ、是ハ全然計算外デゴザイマスカ  
ラ、之ヲ差引クト云フヤウナコトハ絶  
對ニゴザイマセヌ、船員保險法ノ保險  
給付デゴザイマスガ、戰時危險ニ因ツ  
テ死亡或ハ廢疾トナツタ者ニ對シテ、  
現在廢疾年金ヲ支給シテ居ル者ガ僅カ  
ゴザイマス、是ハ今度ノ改正デ廢疾年  
金ガ非常ニ多クナリマス、ナリマスガ、  
之ニ對シマシテハ其ノ差額ヲ支給スル  
コトニナリマス、廢疾年金ハ四月一日  
以後差額デハナク、高クナツタモノガ  
改訂セラレテ支給セラレル譯デゴザイ  
マス、廢疾手當金ヲ受ケタ者ガゴザイ  
マスレバ、是ハ廢疾年金カラ控除シタ  
コトニナリマス、遺族ニ對シマシテハ、  
從來遺族年金ト云フ制度ガ全然ゴザイ  
マセヌノデ、新タニ遺族年金ト云フ制度  
ガ出來マシテ、控除ノ問題ガ起ラナイ  
ノデアリマス、今マデ思ハナイ遺族  
年金ガ四月一日カラマルノ入ツテ來  
ル譯デゴザイマス

○最上委員 分リマシタ、ソレカラ第  
四トシテ同ヒタイコトハ、輸送特攻隊  
トデモ申シマセウカ、戰爭行為ニ依ツ  
テ非常ニ危險區域ニ入ツテ、死致其ノ  
他ノ傷害ヲ受ケタ者ニ對スル加算デア  
リマス、之ヲ昨年ノ一月一日ヨリ遡及  
シテ適用サレルト云フコトデゴザイマ  
スガ、更ニ進ンデ大東亞戰爭以後ニ於  
テモ之ヲ適用サレルヤウナ御考ヘハナ  
カツタノデアリマセウカ

○伊藤(護)政府委員 先程ノ御説明デ  
遺族年金ノ所デ一寸説明シ落シマシタ  
ト思ヒマスガ、從來死亡手當金ト云フ  
モノガゴザイマシテ、三月分ノ死亡手

當金ヲ支給シテ居リマシタ、是ガ僅カ  
該當者ガアリマスノデ、是ハ遺族年金  
支給ノ場合ニ控除致シマスケレドモ、  
僅カナ金額デゴザイマスカラ問題ニナ  
ラヌノデアリマス、尙ホ只今御話ノ加  
算ノ遡及適用ニ付テ、ナゼ大東亞戰爭  
勃發マデ遡ラナイカト云フ御趣意ノ御  
質問カト思フノデアリマス、是ハ御承  
知ノヤウニ、大東亞戰爭ガ勃發致シマ  
シテ、其ノ後ニ昭和十八年ノ議會ニ於  
キマシタ、戰時優遇特例ト致シマシテ、  
一月ニ付テ三分ノ一、即チ一月二付  
テ十日ノ加算ヲ認メルト云フ制度ヲ政  
府ハ提案シ、議會ノ協賛ヲ經テ施行シ、  
今日ニ來ツテ居ル譯デアリマス、是ガ  
大東亞戰爭勃發以來其ノ加算制度ガ今  
日マデ行ハレテ居ル譯デアリマスガ、  
其ノ後ノ情勢ノ變化ニ依リマシテ、  
其ノ當時ハソレデ宜カツタト思フノデ  
アリマスガ、其ノ後非常ニ情勢ガ變化  
致シマシテ、色々調査致シマス、昨  
年ノ一月カラ船舶ノ沈没件數ニ致シマ  
シテモ、又死亡若シクハ其ノ他ノ事故  
ニ致シマシテモ、是ハソレ以前ニ比ベ  
マス、格段ノ相違ガアルノデゴザイ  
マス、桁違ヒノ件ガ増加致シテ居リマ  
スノデ、昨年ノ一月頃カラノ船員ノ勞苦  
ト云フモノハ、ソレ以前ニ比ベマス、  
比較ニナラヌ程度ノモノニ達シテ居リ  
マスノデ、昨年ノ一月カラノ勤務ニ對  
シマシテハ特別ノ考慮ヲ拂ハナケレバ  
ナラヌト云フコトデ、昨年ノ一月一日  
以後ノ乘組ノ期間ニ付テ、一月ニ付テ  
二月或ハ三月ノ加算ヲスル、斯ウ云フ  
風ニ改正致シテ居ルノデアリマス

○最上委員 私ハマデ本案ニ關聯シテ  
色々質疑シタイ事項ガアルノデアリマ  
スガ、是ハ運通省所管ニモ關係スル問  
題ガ多クアリマス、隨テ大臣ノ御出席

第七

ノ關係モアリマスカラ、是ヨリ以下國  
民勤勞問題ニ對シテ、竝ニ空襲ニ依リ  
罹災者ノ保護對策ニ付テ御聽キシタイ  
ト思フノデアリマス

○村松委員長 最上君ニ御注意申上デ  
マスガ、成ベク本案ニ直接關聯シテ御  
質問ヲ願ヒタイト思ヒマス

○最上委員 政府ハ前議會ニ大臣ハ迭  
ツテ居ラレマスガ、最近ノ戰局ノ推移  
ヲ見テ、勤勞根本法ヲ制定スルト約サ  
レマスガ、然ルニ今同勅令デアリマス  
ガ、國民勤勞勅令ガ先般ノ審議會ニ  
於テ可決決定サレマシタ、斯カル重大  
ナル法案ヲ何故法律トシテ出サズニ、  
一勅令トシテ出シタカ、而モ議會ハ既  
ニ開會セラレントスル今日、ワザノ  
審議會等ノ勅令ニ依ツテ出シタ政府ノ  
眞意ハ了解スルコトガ出來ナイノデア  
リマスガ、之ニ付テ大臣ノ御當辯ヲ願  
ヒタイ

○廣瀨國務大臣 今回國民勤勞ノ勅令  
ヲ出スコトニ致シマシテ、ソレハ先頃  
總動員審議會ノ答申ヲ得タ譯デアリマ  
スガ、勅令ハ時局下國民勤勞勅令ノ重  
要性ニ鑑ミマシテ、勅令ノ強化ヲ圖ル  
ト共ニ、從來總動員審議會ノ議ヲ經マ  
シテ制定セラレタ徵用令デアルトカ、  
或ハ挺身隊令デアルトカ云フヤウナ勅  
令ヲ一括シテ、此ノ新タニ定メマス勅  
令令ニ吸收シテ、サウシテ勅令ノ強化  
ト整備ヲ圖ル、斯ウ云フ趣旨ヲ制定  
致シマシタ、御承知ノヤウニ、是ハ總  
動員法ニ基キマシテ勅令ニ依ツテ決メ  
ルト云フコトニ相成ツテ居リ、又總動  
員審議會モ貴衆兩院ノ有力ナ方々ヲ以  
テ組織セラレマシテ審議サスルト云フ  
建前ニナツテ居リマシテ、從來ノ實際  
ノ實情ハ、此ノ勅令ノ如キモノハ、ヤ  
ハリ總動員審議會ニ附議スルト云フ建

前ニナツテ居ルノガ先例デアリマス、  
ソレデ法律デナクテ總動員法ニ根據  
置ク勅令トシテ制定ヲ致シタヤウナ譯  
デアリマス、左様ニ一ツ御含ミ置キ  
願ヒタイト思ヒマス

○最上委員 本員ハ斯カル國家的勤勞  
根本法トモ申スベキ重大法ニ對シマシ  
テハ、出來得ベクシバ法律ニ依ツテ其  
ノ基礎法案トモ申スベキモノデモ制  
定サル、コトヲ期待シ、又希望シテ居  
ツタノデアリマスガ、政府ノ色々ノ關  
係カラ左様ニ決定サレタト云フコトハ  
致シ方アリマセ

第二ハ今回ノ勤勞勅令ハ、從來ノ  
工場等ニ對スル勅令ト云フ意味ヲ脱却  
シテ全國民ヲ網羅サレタ所ノ產業勅令  
トモ見レベキ體制ガ作ラレタト、私ハ  
新聞紙ノ斷片ノ要綱ヲ見タケデモ  
肯カレルノデアリマスガ、政府ハ是ガ  
立案ニ當ツテ、眞ニ皇國勤勞觀ヨリスル  
所ノ——今マデノ勤勞ハ實金ナリト云  
フヤウナ間違ツタ觀念デナク、國家奉  
仕ノ觀念ヲ含メテ立案ノ趣旨デアツ  
タカ、ソレ等ニ付テ御聽キシタイト共  
ニ、是ガ實施期日ハ何時頃カラ行ハ  
レマセウカ、此ノ點ニ付テ聽キタイノデ  
アリマス

○廣瀨國務大臣 今回制定セント致シ  
マスル勅令ハ、最上君ノ仰セノ通り皇  
國勤勞觀ヲ中心トシテ作リ上ゲタモノ  
デアリマス、即チ國民ノ赤誠ノ進ル愛  
國心ヲ中心トシテ、國家ノ爲ニ奉公  
シテ實ヲ云フコトガ勅令ノ根本デ  
アリマス、ソレカラ此ノ勅令ノ實施  
期ニ付キマシテハ、何日トハ申シ兼ネ  
マスガ、現下ノ情勢ニ鑑ミマシテ、一  
日モ早ク之ヲ勅令ト致シテ施行致シ、  
國家ノ必要ニ應ジタイ所存デガイマス

○村松委員長 一寸最上君ニ御尋ネ致  
シマスガ、此ノ問題ハモツト繼續シマ  
スカ

○最上委員 繼續シマス

○村松委員長 アナタノ御發言ハ先程  
ノ委員長ノ宣告ニ相反スルモノト認メ  
マスガ、唯アナタノ特殊ノ御事情モア  
ルヤウデスシ、又只今大臣ガオイデニ  
ナリマスカラ、御聽キニナルコトガ便  
宜ト思ヒマスノデ、先例トシナイト云  
フ意味ニ於テ議場ニ諸ツテ見タイト思  
フノデアリマス

○最上委員 甚ダ遺憾ト思フノデス、  
是ハ勤勞問題デセウ、船員保險法ハ、勤  
勞デセウ、勤勞關係ニ付テ何ガ惡イ、  
委員長ハ獨斷デス、何處デモ是ハヤツ  
テ居リマス

○村松委員長 許サウトシテ居ルノデ  
ス

○最上委員 重大問題デス、何處ニ行  
ツテモ聽イテ居リマス、或ハ醫療問題  
トカ何トカ言ヘバ別デス、是ハ一般勤  
勞問題、ソレヲ委員長ハイケマセ

○村松委員長 御聽キ下サイ、勤勞問  
題ノ重大性ニ付テ能ク認識シテ居リマ  
スノデ、後ニ總メテヤラウ、斯ウ先程宣  
言シテ居リマス、デスカラ後ニ總メテ  
ヤルコトニ皆サンニ諸ツテガイマス  
カラ、左様ニ御承知ヲ願ヒタイノデス、  
勿論勤勞問題ハ重大デスカラ左様ニ取  
計ラヒマス、ソコデ一ツ御諮リ致シマ  
スガ、是ハ直接關聯ハ薄イノデアリマ  
スガ、最上君ノ特殊ノ事情モ聞接ニ聞  
イテ居リマスノデ、此ノ質疑繼續ヲ先  
例トナラヌ意味ニ於テ發言ヲ許可シタ  
イト思ヒマスガ、御異議ガイマセヌ  
カ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕  
○村松委員長 ソレデハ異議ナシト認  
メマシテ——最上君

○最上委員 總理大臣ハ先日ノ本會議  
ノ席上デ、議員ノ質問ニ對シテ、勤勞  
勅令ノ管理トノ一貫調整ヲ言明致シマ  
シタ、聞ク所ニ依レバ、既ニ軍需省ト  
ノ間ニ或ル種ノ諒解ガ成ツテ、同省所  
管ノ管理行政ヲ厚生省ニ移スヤウニ内  
定シタノコトデアリマス、然ラバ現  
在ノ勤勞局ヲ外局ニ移ストカ、或ハ其  
ノ他擴大強化ヲシナケレバナラヌト考  
ヘマスガ、是等ニ付テ其ノ内容等ヲ伺  
ヘバ伺ヒタイノデアリマス、更ニ農業  
要員、所謂學徒勸導員等ノ關係ハドウナ  
ルノデアリマセウカ、是等ノ問題ニ付  
テ御聽キシタイノデアリマス

○廣瀨國務大臣 勤勞ノ管理並ニ勤勞  
ノ勅令ノ問題ニ付キマシテハ、此ノ間  
總理大臣ガ其ノ一貫調整ヲ強化スルト  
云フコトヲ御話シニナリマシタガ、今  
ノ所ハソレヲ以テ御承知置キテ願ヒタ  
イト思ヒマス、尙ホ農業勞務ト、今  
回ノ國民勸導員令ト關係ニ付キマシテ  
ハ、ソレハ十分ニ調査ヲ圖ルヤウニ出來  
テ居リマス、其ノ内容等ニ付キマシテ  
ハ、必要ガアリマスレバ勤勞局長ヨリ  
御說明ヲ申上ゲタイト思ヒマス

○中村(鐵)政府委員 第一ハ農業要員  
ノ問題デアリマスガ、御承知ノヤウニ農  
業要員ノ制度ハ、總動員法ノ第八條ニ  
基キマシテ、生産行政ノ面カラ出來タ  
モノデアリマス、勅令トハ關係ナク  
發足シテ居ルノデアリマス、農業要員  
ニ於キマシテハ、所謂農業勞働者ト申シ  
マスルカ、他人ニ雇傭サレテ居ル者ハ除  
外サレテ居ルヤウナ關係ニ相成ツテ居  
リマス、勿論農業要員ハ、之ヲ指定ス  
ル際ニ付キマシテハ、勸導員ノ方ノ面ト  
十分密接ニ連絡致シマシテ指定ヲ致シ  
マス、又一且指定サレタ以上ハ勸導員上  
此ノ要員ヲ確保シテ行クト云フ爲ニ、十

分ノ措置ヲ執ツテ行ク方針デ進ンデ居  
リマス、一方學徒ノ問題デアリマスル  
ガ、今回ノ勸導員令ニ於キマシテハ、學  
徒ノ特殊ノ地位ニ鑑ミマシテ、一般ノ  
勸導員ト共通ニ指定シ得ル事項ニ付キマ  
シテハ、勸導員令ノ中ニ入レテアリマ  
スガ、學徒ノ身分ニ依リ特殊ノ扱ヒニ  
付キマシテハ、一種ノ特別法トシマシ  
テ、學徒勤勞令ノ方デ之ヲ指定スル  
云フコトニ相成ツテ居リマシテ、謂ハ  
バ一般法ト特別法ト云フヤウナ關係デ  
扱ツテ居ル譯デアリマス

○最上委員 私ハ以下聊カ今回ノ勸導  
令ノ内容ニ付テ御聽キヲシタイノデア  
リマスガ、是ハ本來ナラバ、私ハ斯ウ  
云フヤウナ法案ハ、勅令ニ出サズシテ法  
律ニ出スベシト云フ觀念デアルカラ、隨  
テ二三ノ質問ヲスルモノデアリマス、  
議會ハ斯クノ如キ言論ノ府デアリマス、  
サウシテ勤勞問題ニ對スル國家的善處  
ヲ促スコトガ最モ必要デアルト考ヘル  
カラ、甚ダ委員諸君ニハ御氣ノ毒デ  
アリマスガ、此ノ問題ヲ討議スルノデ  
アリマス、色々問題ニナツテ居リマシ  
タガ、本案ノ改正等ヲ見マシテモ、勤  
勞者ニ對スル國家的處遇問題ガ何ダカ  
缺ケテ居ルヤウナ氣持ガスルノデアリ  
マスガ、何カ是等ノ問題ニ付テ政府ハ  
本規則ニ組入レラレマシタカ、御答ヘ  
願ヒタイノデアリマス

○廣瀨國務大臣 勸導員令ノ中ニ勤勞者  
ノ待遇ノ問題ノ規定ガアルカト云フヤ  
ウニ伺ツタノデアリマスガ、勸導員令ノ  
性質上、サウ云フ待遇ノ規定ハ入ツテ  
居リマセヌ、唯併シ私ハ本會議ニ於テ  
モ申述ベタノデアリマスガ、政府モ今  
日ノ勤勞者ガ國家ノ爲ニ一死報國ノ働  
キヲナシテ居ル實情ニ對シマシテ、其

報ユルノ途トシテ待遇ガ十分デナイ

ト云フコトヲ認メテ居リマス、從來勤勞者保護ノ色々ナ制度ガゴザイマスガ、例ヘテ見マスレバ、此ノ保險ノ如キモ其ノ一ツデアリマス、或ハ徵用援護ノ如キモノモソレデアリマス、今回ノ學徒勤勞援護ノ制度モ設ケラレルノデアリマスガ、是等ハ主トシテ經濟面ニ於ケル援護デアリマシテ、是ノミヲ以テハ足ラナイ、斯ウ思フノデアリマス、之ニ對シテハ精神ノ二傷退スルノ方法ヲ講ジナケレバナラヌト存ジテ居リマス、之ニ付テハ目下政府部内ニ於テ協議ヲ進メテ居ルヤウナ次第デゴザイマス

○最上委員 ソレニ附隨シテ御聽キシタイコトハ、勤勞者ノ殉職ニ對スル國家待遇デアリマス、此ノ問題ハ先般ノ次官會議ニ於テ空襲犧牲者ノ産業戰士ニ對シテハ軍屬待遇ヲ與ヘ、靖國神社ニ合祀スベシト云フヤウナ申合セヲシテ陸海軍當局ニ陳情スルトカ、或ハ建議ヲシタト云フ話ヲ聞キマシタガ、是等ニ對シテ政府ハ如何ナル御考ヘガアルカ、又民間等ニ於テハ此ノ際等戰士ニ對シテ何等カノ稱號ヲ與ヘヨト云フヤウナ聲モアルノデアリマスガ、之ニ付テ大臣ハ如何ナル御考ヘヲ御持チテアルカ伺ヒタイ

○廣瀨國務大臣 色々意見ガ政府部内ニモアリマスガ、是ハマダ總マツテ居ラスコトデアリマスシ、政府部内ノコトヲ申上ゲルベキ筋合デモナイト思ヒマスカラ、ソレハ申上ゲマセヌガ、私共ハ今日ノ勤勞者ノ國家ニ對スル勵キニ對シテ、何トカシテ之ヲ精神的面ニ於テ報イナケレバナラヌト云フ熱意ヲ持ツテ、話ヲ進メテ居ルノデアリマスカラ、左様ニ御承知ヲ願ヒタイと思

ヒマス

○最上委員 此ノ勤勞者ノ殉職問題ハ實ニ由々シキ問題デアリマス、現ニ私ノ關係セル青年ガ某所ノ軍需飛行機工場ヘ行ツテ居リマス、數次ノ爆撃デ友人等モ多少ノ被害ヲ蒙ツタ、ソレヲ目ノアタリニ見セ付ケラレタ是等戰士ハドウセ死ヌナラバ兵隊ニナツテ死ヌト云フヤウナコトデ、志願ヲ申出タト云フヤウナコトモ聞クノデアリマス、斯ウ云フ殉職者ニ對シテハモウ今頃政府ニ於テ相談スルコトナクシテ、獨斷デ斷乎トシテ何等カノ國家的優遇ヲシナケレバナラヌト思フノデアリマスカラ、一段ノ御考慮ヲ煩ハシタイ、又之ヲ希望致シマス

更ニ從來男子ノ就業禁止ガ行ハレテ來タ、昨年デアリマシタカ十七職種ニ對シテ禁止令ガ施行サレマシタガ、今回女子ニ對シテモ或ル職種ガ禁止サレルトノコトデアリマスガ、其ノ職種ハ何ト何デアリマスガ、又男子ハ四十歳ト思ヒマスガ、最近改正サレタカ知レマセヌガ、女子ノ年齢ハ幾歳ニ依ツテ之ヲ行ヒマスガ、一寸伺ヒマス

○中村(敬)政府委員 女子ノ所謂就勞制限ト云フコトニ付キマシテハ、今回ノ勅令案ニ其ノ根據ヲ置クコトニシマシタ、ソレニ付キマシテ是ガ具體化ニ付キマシテハ色々案ヲ練ツテ居リマスガ、差當リ二ツノ問題ガアルノデアリマシテ、第一ハ國民學校ノ卒業生、所謂國卒ト申シテ居リマスガ、從來ノ援ヒニ於キマシテモ、國民學校ヲ出マシテ二箇年ノ間ハ卒業生トシテ特殊ノ扱ヒヲ致シテ居リマス、即チ勳員署ニ於キマシテハ之ヲ特ニ重要ナ方面ニノミ就職轉シテ居ルノデアリマス、例ヘバ家事使用人ト云フヤウナ者ニ付キ

マシテハ原則トシテ轉シテ居リマセヌ、斯ウ云フ行政上ノ扱ヒニ相成ツテ

居リマス、デアリマスカラ之ヲ法制的ニ明確化スルト云フコトガ一ツノ問題デアリマス、ソレカライマ一ツハ未ダ實行シテ居リマセヌケレドモ、年齢ハ大體女子ニ付キマシテハ二十五歳未満ノ者ガ中心デアリマスルケレドモ、是等ノ者ニ付キマシテハ必ズシモ左様ナ女子デナクテモ、例ヘバ高年齢ノ女子デモ間ニ合フト云フヤウナモノニ付キマシテハ、今後新タニ雇レル場合ニ制限ヲスルト云フ必要ガアリハシナイカ、大體今其ノ二點ヲ中心ニ致シマシテ差當リ具體化スベキ案ヲ練ツテ居ル譯デアリマス、御承知ノヤウニ此ノ種ノ制限ハ其ノ當時ノ勤勞給源ノ一般ノ狀況ナリ、之ニ對スル需要ノ數字ト云フモノヲ見テ決定スベキモノデアリマス、隨テ差當リトシマシテハサウ云フ二ツノ問題ヲ中心ニ研究シテ居ルノデアリマス、今回ノ勅令案ニ法規ノ根據ヲ置キマシタノハ、サウ云フヤウナ必要ガアツタ爲ニ置イタノデアリマス

○最上委員 男子ノ徵用期間ハ從來二年、既ニ二年ヲ超シテ三年ニ達シタルモノモアリマス、女子ハ先頃現員徵用ヲ開始サレマシタガ、女子挺身隊ハ一箇年デアリマス、既ニ一箇年ニ達シテ二箇年ニ入りツ、アル人モアリマスガ、今回ノ改正案デハ此ノ男子、女子ニ對スル徵用ノ期間等ハ變リハナイカ、挺身隊或ハ又學徒動員ノ期間モ一年デアツタト記憶シテ居リマスガ、是等ノ期間ニ付テハドウデアリマセウカ、御聽キシタイと思ヒマス

○中村(敬)政府委員 徵用ナリ、挺身隊ナリ、或ハ學徒動員ニ付キマシテノ期間ノ問題デアリマスガ、徵用ニ付キ

マシテハ今回ノ勅令ノ上ニハ直接之ヲ規定シテ居リマセヌ、ケレドモ實際ノ運用ト致シマシテハ二箇年毎ニ區切ツテ行キタイ、斯様ニ考ヘテ居リマス、

ソレカラ挺身隊ニ付キマシテハ從來ノ勅令デ明白ニ一年ノ原則トスルヤウニ規定シテアリマス、今後運用ノ方針トシテハヤハリソレヲ踏襲シテ行キタイト考ヘルノデアリマス、ソレカラ學徒動員ニ付キマシテハ、御承知ノヤウニ昨年ノ春アノ通年動員ノ方針ガ決定シマシタ時ニ、一年限りノ措置ト云フコトデ、隨時的措置トシテ決定サレタノデアリマス、隨テ本年ノ三月マデノ動員ニ付キマシテハ決定シテ居ル譯デアリマス、ソレ以後ノ動員ヲ如何ニスルカト云フコトニ付テハ、マダ文部省ノ中デ正式ニ決定シテ居ル譯デハアリマセヌガ、併シナガラ部分的ニハ、例ヘバ學校ノ卒業生ニ付キマシテ一年間研究課程ニ入ルト云フヤウナコトガ既ニ決マツテ居ルノデアリマス、隨テ以上ノ學徒ニ付キマシテモ、大體從來ノ方針ヲ踏襲サレルヤウニナルドラウト考ヘテ居リマス

○最上委員 今回ノ改正デ地方長官ハ必要アリト認ムル時ハ就業ヲ勸誘シ又ハ就業命令ヲ出スコトヲ得ト云フヤウナコトニナリマシタガ、是等ハ現在要申告者以外ノ者ニサウ云フヤウナ處置ガ執ラレルモノト私ハ解釋致シマス、又現在徵用ハ青年登錄ニ依レバ、女子ハ十四歳ヨリ四十歳男子ハ十四歳ヨリ六十歳ト云フコトニナツテ、又色々其ノ他職業能力申告令等モアリマスガ、現在ノ徵用ハ年限ハ何歳位マデ徵用シテ居ルカ、又將來ドウ云フ見込デ徵用セシトスルノデアアルカ、之ヲハツキリシテ置カナイト、今回ハ徵用志願モ

出來ルノデアリマシテ、國民ニ對スル本法運用ニ付テモドウカト思ヒマスカラ、ソレヲハツキリ一ツ伺ヒタイノデアリマス

○中村(敬)政府委員 徵用ノ年齢デアリマスガ、是ハ法規ノ上ニ於キマシテハ、國民登錄ノ要申告者ヲ徵用シ得ルト云フコトニ相成ツテ居リマス、隨ヒマシテ男子ニ付キマシテハ、現在要申告者ハ六十歳、女子ニ付キマシテハ四十歳マデ、斯ウ云フコトニ相成ツテ居リマシテ、法規的ニハソコマデハ徵用出來ル譯デアリマス、併シナガラ現實ノ問題トシマシテ、目下ノ所府縣デ大體統一シタ方針ヲ採ツテ居リマスルガ、最高ハ四十五歳マデ採ツテ居リマス、ソレ以上ノ者ハマダ徵用致シテ居リマセヌ、但シ、現員徵用ノヤウナモノハ別デゴザイマス、即チ既ニ自由意思デ會社工場ニ傭ハレテ居ル、之ヲ徵用スルト云フ所謂現員徵用、是等ニ付テハ無論サウ云フ制限ハアリマセヌガ、新規ニ徵用スル場合ニハ大體男ニ付テハ四十五歳、斯ウ云フコトニナツテ居リマス、ソレカラ女子ニ付キマシテハ現員徵用ハヤツテ居リマスガ、未ダ新規徵用ハヤツテ居リマセヌ、年齢ノ點ニ付キマシテハ、男女トモ高年齢ニ至ルニ從ヒマシテ色々家庭ノ事情ガ複雑ナコトガアリマシテ、又生産現場ニ是等ヲ入レマシテモ中々其ノ工具ニナリ切ルト云フコトハ難カシイノデゴザイマス、隨テ方針トシテハ成ベク高年齢ノ者ヲ徵用スルト云フコトハ避ケテ行キタイ、斯様ニ考ヘテ居リマス、隨テ色々徵用ノ需要ハアリマスルケレドモ、今日ハ高年齢者ハ法規的ニハ採ルケレドモ成ベクヤラナイ、斯ウ云フコトデ行ツテ居リマス、併シナガラ將來ノ情勢ニ付

キマシテハ、左様ナ氣持ハアリマスルガ、何處マデ今ノ四十五歳デ止メ得ルカト云フコトハ問題ダト思ヒマス、氣持ノ上ニ於テハ成ベク上ノ方ハ避ケルト云フコトニナツテ居リマス、但シ御話ノ出マシタ志願ニ依ル場合、是等ハサウ云フ法律ノ制限外ニ扱フ譯デゴザイマス

○村松委員長 最上君、大臣ガ豫算總會ニ出ラレル時間ノヤウダガ、宜シウゴザイマス

○最上委員 宜シウゴザイマス、——地方長官ガ就業勸誘又ハ命令ヲ出スノハ、此ノ要申告者以外、所謂六十歳以外ト解釋シテ宜イカ、又女子ハ現員徵用デアリマスガ、是ハヤハリ今後トモ現員徵用或ハ挺身隊、勤報隊位ノ徵用デ、男子ノヤウナ一般の徵用ハ行ハレナイ考ヘデアリマセウカ

○中村(總)政府委員 就職ノ勸奨ト云フ制度ガ今回採用サレル方針ニ相成リマシタガ、是ハ勸令ノ上デハ只今年齡ノコトハ直接ニ現ハレテ居リマセウ、併シナガラ厚生大臣ノ指定スル者ニ付キマシテハ其ノ適用外ニスルコト、是ハ就職命令ニ付テモ同ジコトデゴザイマス、隨テ大體今考ヘテ居ルノハ要申告者ノ範圍ニ於テ之ヲ適用シテ行キタイ、斯ウ云フコトニ考ヘテ居リマス、ソレカラ女子ノ徵用ノ問題デアリマス、是ハ現員徵用ハ既ニ實行シテ居リマスガ、新規徵用ニ付キマシテハ既ニ政府ノ方針ト致シマシテモ、之ヲ必要ニ應ジテ實施スルト云フコトニ方針ヲ決定シテ居リマシテ、事務的ニハ諸般ノ準備ヲ進メテ居リマス、就キマシテハ從來女子挺身隊ト云フモノガアツタノデアリマスルガ、今回ノ徵用制度ニ付キマシテハ、此ノ法規ニモ規定シテアリマスルガ、集團のニ隊組織デ、隊ノ形

デ徵用スル、斯ウ云フ新ラシイ方法モ採用スルコトニ相成ツタノデアリマス、是マデノ徵用ハ御承知ノヤウニ個人個人個別ニ徵用スルコトニナツテ居リマシタガ、特ニ女子ノヤウナ場合ヲ考ヘマスルト、お互ヒ知り合ツタ者ガ隊ヲ組ンデ行クト云フコトデアレバ、徵用デアリマシテモ比較の出動ガ容易デハナイカ、斯様ナ考ヘデ徵用ニ隊組織ノ出動ヲ豫定シテ徵用ガ出來ル、斯ウ云フ途ヲ開イタ譯デアリマス

○最上委員 能ク分リマシタガ、其ノ女子ノ隊組織ニ依ル徵用ノ年齡ハドノ位マデ——今マデハ二十五歳デアリマシタガ、年齡ハドノ位マデ徵用スル方針デアリマス

ヤウナ趣旨ヲ新聞紙上デハ報道シテ居リマスガ、ソレハ減耗ニ依ル補充ニ對スル定員制デカ、更ニ進ンデ現在ノ各會社、工場、所謂重要産業企業ニ對スル定員ニ付テ何等カ御考慮ガアルカ、現ニ會社等ニ依ツテハ仕事ガナクテ人ガダブツイテ遊ンデ居ルト云フヤウナコトガアル、又會社其ノ他ノ事務所等ニ於テモ、女子ノミナラズ男子ニ於テモマダ——整理シ、定員ヲ國家デ作ツタナラバ、マダ——勞務給源ガ得ラレルト云フヤウナ意味ニ解釋スルノデアリマスガ、サウ云フ面ニ向ツテノ定員制ヲ御考ヘデアツタデアリマセウカ

○中村(總)政府委員 御答ヘ申上ゲマス、勤勞定員制ト云フ問題ニ付キマシテハ、從來屢、論議サレタ所デアリマシテ、實ハ政府内部ニ於キマシテモ出來ルデケガ實現ヲ圖リタイト云フコトデ、非常ニ詳細ナ研究モ實ハ進メテ居ツタノデゴザイマス、併シナガラ一般ニ定員ヲ設ケマスルト、例ヘバ此ノ工場デハ千人ナラ千人ノ定員ト云フコトヲ定メテシマヒマス、其ノ後若シ生産事情ガ非常ニ變リマシテ、増員デナク、遂ニ減員シナケレバナラヌヤウナ情勢ニナツタ際ニ、定員ヲ決メテ置クコトガ減員スルノニ非常ニ支障ヲ生ズル、隨テ目下及ビ今後ノ問題モアリマスルガ、生産事情ガ可ナリ變轉シツ、アル際ニ於キマシテ、工場別ニ定員制ヲ設ケルト云フコトニ相成リマスルト、場合ニ依ツテハ工場ニ或ル程度既得權ヲ認メタト云フコトニナツテ、所謂ダブツキノ整理ト云フヤウナコトニ却テ支障ヲ生ズルノデハナイカ、斯ウ云フ懸念モアツタ譯デアリマシテ、今回ノ勸令案ヲ作ルニ付キマシテハ遂ニ定員制ヲ織込ムコトハ出來ナカッタ譯デゴザイマス、只今入レマシタ案ハ定員制ト稱、趣キヲ異ニシテ居ルノデアリマシテ、大體一般ノ工場ニ付キマシテハ從來ノ例カラ申シマス、三箇月毎ニ需要ノ申請ヲ取ツテ居ルノデアリマス、詰リ四半期毎ニ需要ノ申請ヲ取ツテ之ニ對シテ制當ヲ實行シテ居リマス、今後モ各工場ハ大體サウ云フ方向デ行キタイト思ツテ居リマスガ、併シナガラ茲ニ生産事情ノ相當安定シテ居ル——事情ガ餘リ變ラナイ、或ハ變ルニシマシテモ、今後寧ろ増産ノ傾向ニアツテ、人ノ需要ガ段々増シテ行クト云フヤウナ工場ニ付キマシテ、其ノ三箇月毎ノ一々ノ申請ヲ取ラナクテモ、是デハ補充シテモ宜シイ、缺員ガ出來タラ是デハ補充シテモ宜イ、例ヘバ此ノ工場ハ千人ト云フ豫定ニシテ置イテ、千人ガ一人缺ケテモ自由ニ補充シテ宜イ、詰リ所謂減耗ガ生ジタ場合ニハ、其ノ減耗ヲ一定ノ範圍ニ於テハ自由ニ補充シ得ルト云フ途ヲ開イタナラバ、會社側トシマシテモ一々其ノ申請ヲシナイデモ補充ガ出來ルト云フコトニナツテ非常ニ便利デハナイカ、斯様ニ考ヘマシテ一部分ノ重要ナ工場ニ付キマシテ、工場ノ方カラ其ノ減耗補充ノ基準ニナル員數ニ付テ是非認可ヲ貰ヒタイト云フコトデアレバ、申請ノ途ヲ開カウ、斯ウ云フ風ニ相成リマシタ、當初考ヘテ居リマスル定員ノ思想トハ若干ノ隔タリハアリマスガ、此ノ制度ニ依リマシテ幾分定員制ノ目的ヲ達シ得ル、斯ウ云フ風ニ考ヘマシテ、サウ云フ案ニ致シタ譯デゴザイマス

○最上委員 改正案ニ依レバ、事前徵用ヲ實施スルコトガ出來ルコトニナツタノデアリマスガ、其ノ結果應徵者ノ「ブール」ヲ作ツテ置クト云フヤウナコトデアルガ、其ノ組織ナリヤリ方ナリ、或ハ具體的ノ事實ニ付テ御示シテ願ヒタイノデアリマス

○中村(總)政府委員 只今御話ノ所謂事前徵用、ソレカラ徵用ノ「ブール」ト申シマス、此ノ二ツノ事柄デアリマスガ、實ハ是ハ別々ニ考ヘテ居ルノデゴザイマス、第一ノ事前徵用ト申シマスガ、事前銓衡ト云フ問題デアリマス、從來ハ規定ノ建前ハ左様ニ相成ツテ居ツタノデゴザイマスガ、何處其處ノ工場ニ何人徵用スルト云フコトガ具體的ニ決マリマシテ、ソレニ基イテ中央カラ地方廳ニ徵用命令ヲ發シ、徵用命令ヲ受ケマシタ地方長官ハ所定ノ期日、例ヘバ一箇月以内ニ徵用銓衡ヲシテ、其ノ人ヲ揃ヘテ工場ニ送ルト云フヤウナ運用ヲ致シテ居リマシタ、ソコデ斯ウ云フやり方ニ依リマス、非常ニ時間的ニ制約ヲ受ケマシテ、自然銓衡ニ付テモ手落テガアリ、無理ガアルト云フコトニ相成ル處ガアリマス、ソコデ丁度ハ例ヘテ申シマスレバ、徵兵検査ノヤウニ、定期ニ於テ銓衡ダケハシテ置ク、サウシテ何時本省カラ徵用ノ命令ガ來マシテモ、例ヘバ或ル縣デハ當時五百人ナラ五百人ノ銓衡済ミノ者ノ手持ヲ持ツテ居ル、是デケノ準備ヲ平素シテ置ケバ、本省カラ徵用ニ付テ命令ガアツテモ即座ニ出セル、又事前ニ徵用ノ銓衡ヲスルノデアリマスカラ、非常ニ銓衡ニ慎重ヲ期スルコトガ出來ル、時間モ掛ケルコトガ出來ル、斯ウ云フコトデアリマス、段々給源モ窮屈ニナツテ參リマシタ現在ニ於キマシテハ、所謂根コソギ動員ト云フコトモ能ク言ハレマスガ、根コソギ動員ヲスルニ付テハ、何トシテモ事前ノ銓衡

ト云フコトヲ慎重ニシナケレバナラス、ソレニハ豫メ事前ニ相當銓衡スル必要ガアル、斯ウ云フヤウナ趣旨ニ於キマシテ、實ハ徵用ニ付キマシテモ、徵用命令ガ出ル前ニ豫メ大體ノ見當ヲ付ケマシテ、候補者ノ選定ヲシテ置ク、斯ウ云フ制度ヲ設ケタノデゴザイマス、是ガ事前徵用ノ趣旨デゴザイマス

ソレカラ今一ツノ問題ハ「ブル」ノコトデアリマスガ、「ブル」ト云フノハ一寸誤解ヲ受ケル虞ガアリマスガ、是ハ實際ノ具體的ノ必要ガアリマシテ、事業主側ニモ是非サウ云フ制度ヲ置イテ貰ヒタイト云フ熱心ナ希望ガアリマシテ、今回ノ改正ヲ機會ニ、左様ナコトガ出來ルヤウナ規定ニ致シタノデアリマスガ、一例ヲ取ツテ申シマスレバ、或ル業界デ修繕工ト云フモノガ非常ニ必要デアル、其ノ業態カラシマシテ、實ハ新シイ機械設備ヲスルコトハ迫モ餘裕ガナイ、餘力モナイカラ、修繕ニ依ツテ全體ノ效率ヲ非常ニ上ゲル、然ルニ修繕ニ付テハ各工場ニ修繕工ト云フモノヲ持ツテ居ルガ、非常ニ不十分ダ、ソコデ統制會ナリ中央デ纏マツタ修理工ヲ持ツテ居テ、サウシテ之ヲ隨時地方ニ派遣シ、當該ノ工場ニ行ツテ、其處ニ居ル修理工ト一體ニナツテ修理ノ仕事ヲスル、斯ウ云フコトニナリマスルト工場側モ非常ニ便利デアル、各工場毎ニ所要ノ修理工ヲ持ツテ居ルト云フコトハ、今日ノ給源ノ關係カラ迫モ出來ナイ、ソコデ中央デ一ツノ纏マツタ修理工ノ團體ヲ持ツテ居テ、サウシテ之ヲ隨時ニ派遣スル、斯ウ云フ制度ガ是非必要ダ、此ノ種ノコトハ實ハ鐵鋼統制會ノ如キモノニ付テハ、或ル種ノ職種ニ付キマシテ既ニ實行シテ居ラ

レマス、併シナガラ今度ハ徵用モ、法規ノ上ニ於キマシテモ斯様ニ共通のニ事業場ニ使フモノニ付テ、一體メニシテ徵用出來ルト云フ途ヲ開クコトニ致シタノデゴザイマス、是ハ通俗のニ云ツテ「ブル」徵用ト申シテ居リマスガ、左様ニ必要カラ生レタ制度デゴザイマス

○最上委員 從來勸報隊、所謂協力者ニ對スル何等國家の扶助ガナカッタヤウデアリマス、然ルニ今回ハ是等勸報隊、女子挺身隊或ハ學徒動員、是ハ從來其ノ適用ハ一寸能ク分リマセヌガ、今回ノ協力ノ法ニ依リ、國家の扶助料等ガ新タニ設ケラレタノデアリマセウカ、ソレニ付テ一寸御伺ヒ致シマス

○中村(敬)政府委員 從來ノ扶助援護ニ付キマシテハハツキリ法規ニ現ハレテ居ルハ、徵用ノ如キ國家權力デ強制的ニ動員スルト云フ場合ニ付テデアリマスガ、勸報隊或ハ如キ法律上ノ義務付ケラレタハ居リマスガ、大體其ノ扶助ノ關係ニ於キマシテハ行政指導デヤツテ行クト云フヤウナヤリ方ニ相成ツテ居ッタノデアリマス、是ハ今回ノ改正ニ當リマシテハ、徵用ハ無論從來ノ通りデアリマスガ、勸報隊或ハ此ノ二ツノモノハ勸報協力ト云フ名稱デ出テ居ルノデアリマスガ、何レニシマシテモ勸報協力ヲ拒ム、即チ從來ノ勸報隊或ハ挺身隊ナリニ參加ヲ拒ンダト云フ時ニハ、或ル一定ノ條件ノ下ニ於テハ、ソレヲモノノ就職命令ヲカケ得ルト云フコトニマデナツテ居ル譯デ、非常ニ強化サレテ居リマス、其ノ點ハ徵用ニ準ズルヤウナ強イ行政手段デアリマス、隨テ從來徵用デ行ハレテ居リマスル所ノ扶助、是ハヤハリ斯

様ナ勸報協力ノ關係ニ於テモ、當然實行スベキ必要ガアルト、斯様ニ考ヘマシテ、勸令案ニハ其ノ根據ヲ諷ツタ譯デアリマス、是ハ法的ナ扶助デアリマスガ、法外援護ノ問題ニ付テハ、徵用ニ付テ、徵用援護會ト云フモノガアツタ譯デアリマス、併シナガラ援護會トシテハ、今後ハ單ニ徵用ノミナラズ、徵用以外ニ於テ徵用ニ準ジタ方法デ動員サレル場合ニ於キマシテモ、事情ハ殆ド同ジデアル、隨テ是等ニモ當然援護ノ手ヲ延ベルベキモノデアルト云フ考ヘデ、既ニ徵用援護會ハ其ノ名稱ノ如キモノモ勸報援護會ト云フ名前ニ變ヘテ、從來ノ徵用ヨリモ一歩進メマシテ、國家ノ行政ナリ或ハ強力ナル指導デ動カ場合ニハ、主トシテ援護會ニ於テ援護ノ手ヲ延ベル、斯ウ云フコトニ相成ツタノデゴザイマス、ソコデ只今丁度大藏省ノ豫算ノ方モ大體決マリマシタノデ、具體的ナル援護ノ限度ヲ今頻リニ練ツテ居リマス、恐ラク數日中ニハ、或ハ十日前後以內ニハ、具體的ナルモノガ決マルト思ヒマス、内容的ニ申シマスレバ、援護ノ主ナ項目トシマシテハ、差額補給ト云フ問題デアリマシテ、ツマリ前收トノ差ガ非常ニ多イ場合ニハ、其ノ差額ノ面倒ヲ見テヤルト云フ制度ガ一ツデゴザイマス、是ハ主トシテ徵用工ニ付テ起ル問題デアリマシテ、學徒ヤ挺身隊ノヤウナモノハ、從前或ル收入デ暮シテ居ルヤウナ事情ニナインデアルカラ、是等ハ差額ノ問題ハ起リマセヌガ、唯最近ニ於テ、女子挺身隊ニ出動シテ居ル者、從來或ル業務ニ就イテ居テ、今度其ノ業務ヲ去ツテ挺身隊ニ就イタ、ソシテ相當收入減ラ來シタ實例ガ起リマシタ、ソコデ挺身隊ニ付テモ差額補給ト云フコトハ段々

起ツテ來ル、斯ウ云フヤウニ考ヘテ居リマス、ソレカラ差額補給ノ外ニハ、一般ノ援護デアリマスガ、是等ハ先程申シマシタヤウニ、大體援護會デ、國ノ補助ト自分ノ所デ取りマスル會費トヲ財源ニシテ、具體的ニ援護ノ方法ヲ今作リツ、アルヤウナ狀況デアリマス

○最上委員 從來我々ガ俗ニ言フ徵用扶助料ハ、何カ一日三十錢位ノ割合デアリマス、又差額補給ハ、昨年多少年齡別ニ於テ變ツタト思ヒマスガ、ソレ等ノモノモ皆今度ノ勸報援護會デ行フノデアリマセウカ、又其ノ額ハ大分増額サレル見込デアリマセウカ、ソレニ付テ伺ヒタイト思ヒマス

○中村(敬)政府委員 御話ノヤウニ全部此ノ援護會デ引受ケテヤルコトニナツテ居リマス、但シアノ扶助ダケハ國ガ直接ヤル制度デアリマス、ソレカラ額デアリマスガ、差額補給ニ付キマシテハ、昨年大幅ノ引上ヲ致シタノデアリマス、昨年ノ秋マデハ全收入ガ九十圓ニナルマデト云フ氣持デ補給ラシテ居ッタノヲ、今度百四十圓マデ引上ゲテ、相當大幅ノ引上ヲ致シテ居リマス、既ニ昨年ノ秋カラ實行シテ居リマス、ソレカラ扶助ノ方ハ、今正確ナ數字ハ私記憶シマセヌガ、昨年ノ夏マデハ一番額ノ少ナイ所デ一日四十三錢位デヤナカッタカ、是モ若干其ノ時ニ引上ラシテ居リマス、是ハ軍事援護ノ方ニ扶助ト云フ規定ガアリマス、アノ軍事援護ト丁度同ジ額ノ所マデ昨年モ上ゲタ、其ノ額ヲ踏襲シテ行ク考ヘデゴザイマス

○最上委員 大體勸報動員令ニ對スル質問ハ終リマシタガ、最後ニ國民勸報動員對策本部ガ中央及ビ地方ニ設置サ

レルカノヤウデアリマスガ、其ノ機構及ビ方法等ニ付テ伺ヒタイト共ニ、又地方ニハ軍需監理部ト云フノガアリマスガ、ソレ等ト地方長官トノ關係ハドノ風ニナリマセウカ

○中村(敬)政府委員 今回ノ勸令案ニハ御話ノヤウニ勸報對策本部ヲ一假稱デゴザイマスガ、設置スルコトニナツテ居リマス、就キマシテハ、中央デハ御承知ノヤウニ今マデ各省トノ連絡ノ爲ニ連絡會議、是ハ主トシテ軍動員ト勸報動員ノ調整ヲ圖ルト云フ目的デ出來タモノデゴザイマス、ソレカラ其ノ下部ノ機關トシテ各省ノ連絡會議モアル譯デゴザイマス、又別ナ特殊ナモノトシマシテハ、石炭勞務ノ對策本部、又ハ日僑勞務ノ對策本部ト云フヤウナ、色々各省間ノ連絡機構ガ實ハ出來テ居ルノデゴザイマス、今後之ヲ正式ニ勸令ニ依リ對策本部ト云フコトニ認メテ行ク譯デアリマスガ、大體ニ於テハ從來ノ色々モノヲ統合シ得ル限リハ統合シテ行カウト、斯ウ云フ考ヘデゴザイマス、地方ニ於テハドウ云フコトニナツテ居ルカト申シマス、地方ハ昨年所謂機動配置ト云フコトガ非常ニ大切ナ問題ニ相成リマシタ結果、勸報機動配置對策本部ト云フモノヲ設ケタノデゴザイマス、其ノ構成ニ付キマシテハ地方長官、ソレカラ軍需監理部其ノ他各省ノ出先機關——作業廳ナド含メマシタ出先機關ヲ網羅シマシテ、勸報機動配置對策本部ト云フモノガ出來タノデアリマス、ソレデ大體此ノ機構ヲ本ニシテ今回ノ勸令ニ依リ勸報對策本部ニ機構ヲハスル、斯ウ云フ考ヘニ達シテ居リマス

○最上委員 大體是デ動員令ニ付テハ終リマシタ、唯一般問題ニ付テ澤山ア

リマスガ、一、二伺ツテ置キタイト思ヒマス、來年度ノ半島勞務者ノ問題ニ付テモ政府ハ對策ガ作ラレテアルコトト思ヒマスカラ、半島勞務者ノ移入狀況ニ付テ御話ヲ願ヒタイト思ヒマス

○中村(敬)政府委員 半島人ニ關スル來年度ノ移入計畫ニ付テハ、マダ出來テ居リマセヌ、是ハ例年國民動員計畫ヲ作ル際ニ軍需省ガ協力シマシテ、朝鮮總督府ト色々協議シマシテ決定スルコトニナツテ居リマスルガ、明年度ノモノニ付キマシテハ未ダ具體的ニ協議ガ纏マツテ居リマセヌ、只今ハ今年ノ一、三月ノ分トシテ追加ノ協議ヲ致シマシタ、實ハ昨年ノ暮押シ詰ツテ、協議ガ纏マツタヤウナ程度デアリマス、ヤツトマア一、三月ノ分ダケ決定シタガ、來年ノ分ニ付テハマダ決マツテ居リマセヌ

○最上委員 是ハ農商省ダト思ヒマスガ、アナタニ御分リニナツタラ御答ヘ願ヒタイト思ヒマス、林産、水産業ニ對スル要員ガ決定サレ、國家徵用制度ガ之ニ依ツテ緩和サレルヤウニナツタノデアリマスガ、農業者ノ徵用ニ對シテ、桑園耕作者ハ農業者ノ中ニ入ツテ居ラナイ、資格ヲ認メラレテ居ラナイト云フコトデアリマスガ、是ハ或ハ間違ヒデヤナイカト思ヒマスガ、サウ云フヤウナ御方針デヤツテ居リマスカ

○中村(敬)政府委員 御話ノヤウニ、農業者ノ現在マデノ制度ニ付キマシテハ桑園關係ノモノハ實ハ入ツテ居ラナカツタノデアリマスガ、先般ノ審議會ニ於キマシテ、是ハ大體事柄ガ事柄デアリマスルノデ、大體審議會ノ御諒解ヲ得マシテ、桑園關係ハ人數モサウ澤山アリマセヌノデ、新シク農業者ノ制度ノ中ニ取入レルト云フコトニ決

マリマシタ、近ク勅令ガ出來テ實行ニ移サレル、斯ウ云フ關係ニナルト思ツテ居リマス

○最上委員 其ノ問題ハドウカ明カニシテ戴キタイト考ヘルノデアリマス、マダ勤勞問題ガ澤山アリマスガ、更ニ災害對策ノ問題ニ付テ……

○村松委員長 三時半デスガ、ソレマデニ濟ミマスカ

○最上委員 一寸困難デスガ……

○村松委員長 ソレデハ殘餘ハ留保シテ戴キマス、ソレデハ、明日ハ大體午後一時開會ニ致シマスガ、詳シクハ公報デ御通知申上ゲマス、本日は是ニテ散會致シマス

午後三時十四分散會